

令和7年度宮城県検証改善委員会報告書

＜令和7年度テーマ＞

「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて



「子どもも先生も、学びの主人公に」

令和7年11月
宮城県教育委員会

本報告書は、宮城県検証改善委員会が、児童生徒の「主体的・対話的で深い学びの充実」に向けた学校改善・授業改善を図るために作成したものです。

学校現場や各種研修会で幅広く活用されることを期待しています。

アンダーライン部分をタップすると、そのページに移動します。

学力・学習状況調査から読み解く

(主に管理職・研究(教科)主任・学年主任・学級担任等の先生方に)

学習状況を把握・分析し、
確かな学力を身に付けさせ
たい。



授業力(教材研究力)
を高めるためには…



1 調査結果の活用について(国語科を例に)

P1

2 各教科

P3

(1) 国語科

① 宮城県児童生徒の調査結果・分析

小学校 中学校

② 課題から迫る授業改善・教材研究

【小学校・中学校:読むこと】

小学校問題分析 中学校問題分析

教材研究(小学校・中学校共通)

(2) 算数・数学科

P11

① 宮城県児童生徒の調査結果・分析

小学校 中学校

② 課題から迫る授業改善・教材研究

【小学校:数と計算、図形 中学校:関数、数と式】

小学校問題分析 中学校問題分析

小学校教材研究 中学校教材研究

(3) 理科

P19

① 宮城県児童生徒の調査結果・分析

小学校 中学校

② 課題から迫る授業改善・教材研究

【小学校:エネルギー 中学校:地球】

小学校問題分析 中学校問題分析

小学校教材研究 中学校教材研究

児童生徒質問調査結果から読み解く

1 「自己肯定感」を高める

(主に生徒指導主任(生徒指導主事)・学年主任・学級担任等の先生方に)

全校体制で児童生徒の自己肯定感を高める取組を考えたい。



児童生徒の自己肯定感向上につながる集団づくりを知りたい。



自己肯定感と社会性

P27

質問調査のクロス集計から自己肯定感を高める取組のヒントを見いだします

生徒指導の実践上の4つの視点を意識した働き掛けのヒント

集団活動の中で自己肯定感を高める働き掛けを提案します

2 「主体性」を引き出す

(主に管理職・特別活動主任・学年主任等の先生方に)

先生方の主体性を更に引き出すには…



児童生徒の主体性を引き出して、成長を支えたい。



主体的な学習態度と学力の関係

P29

児童生徒質問調査の経年比較や教科とのクロス集計から主体的な学習態度と学力(算数・数学)の関連を示します

児童生徒の主体性を支える教員の主体的・協働的な取組

P30

「学年チーム」が児童生徒の主体性を引き出す具体例を示します

教育学の観点から学力向上に向けた提言

「これから求められる国語の授業づくり」

宮城教育大学教育学部

教授 児玉 忠

P31

「これから求められる算数の授業づくり」

宮城教育大学大学院教育学研究科

教授 市川 啓

P33

参考となるWebサイト一覧

P35

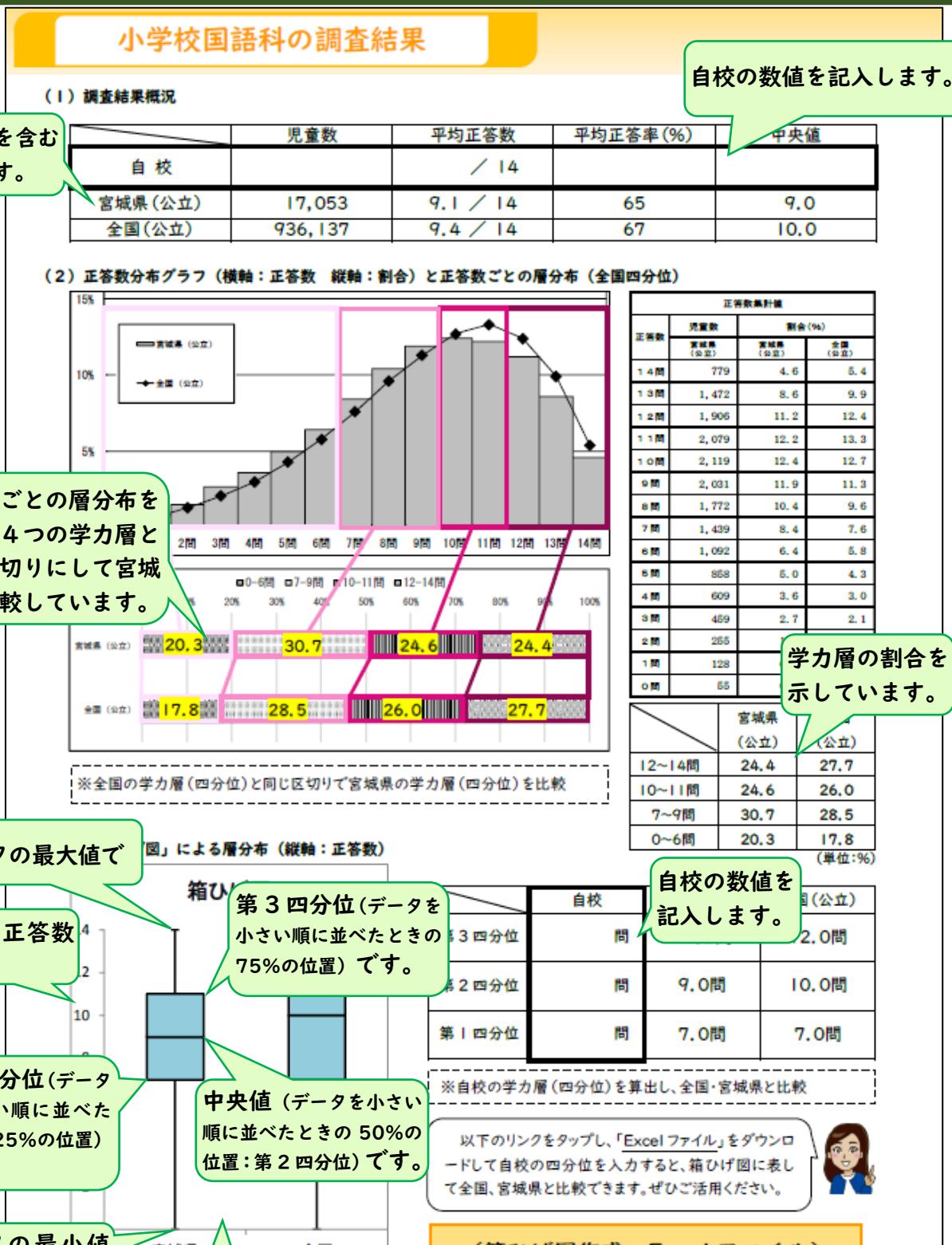
子供の学びを支援する5つの提言

P36

「学校教育に期待すること」 委員一覧

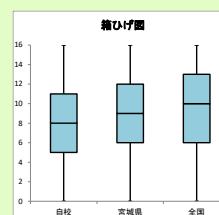
＜調査結果の活用について＞

各教科でまとめました「調査結果」ページの見方について、小学校国語科を例に示します。
こちらの見方を参考に、宮城県だけでなく、自校の調査結果の分析にご活用ください。



下線部分をタップしてExcelファイルをダウンロードします。
自校の数値を入力すると箱ひげ図が完成し、宮城県や全国と比較できます。

箱ひげ図データ	自校	宮城県	全国
変数の名前			
最大値	14.000	14.000	14.000
第3四分位	10.000	11.000	12.000
第2四分位	9.000	9.000	10.000
第1四分位	6.000	7.000	7.000
最小値	0.000	0.000	0.000



箱ひげ図から、宮城県の分布は中央値付近にまとまり、ばらつきはやや小さいものの、上位層が少ないことが分かります。

＜調査結果の活用について＞

自校の数値を記入します。

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方	2	71.7	76.9
	(2)情報の扱い方	1	59.3	63.1
	(3)我が国の伝統文化	1	80.5	81.2
実践力	A 話すこと・聞くこと	3	65.7	66.3
		3	67.2	69.5
		4	56.5	57.5

平均正答率が高かった問題と低かった問題を取り上げています。

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(△)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
			県	自校
△ 3一 選択式	(3)言語文化	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかを見る	【 】	【 】
△ 3二(1) 短答式	C 読む	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかを見る	【 】	【 】
◆ 2三 記述式	B 書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る	57.3 [-4.0P]	【 】
◆ 3三(1) 選択式	C 読む	年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書くことができるかどうかを見る	64.2 [-7.9P]	【 】
		実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る	48.7 [-2.6P]	【 】
		みる目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る	40.6 [-0.2P]	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、() :無解答率、【 】:全国との差)

- ・ [3三(2)] (C 読む) 《18.5%》 [2.3P]
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る

自校の数値を記入します。

○正答数の分布は、全国と比較すると、やや上位層が少なく下位層が多くなっています。
箱ひげ図から、中央値がやや低く、全体的に下方に分布していることが分かります。

○「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」は、比較的良好でした。

○「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」、「目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」等に課題が見られました。

宮城県の調査結果のまとめになります。

自校の調査結果をまとめてみましょう。

次

タップすると目次に戻ります。

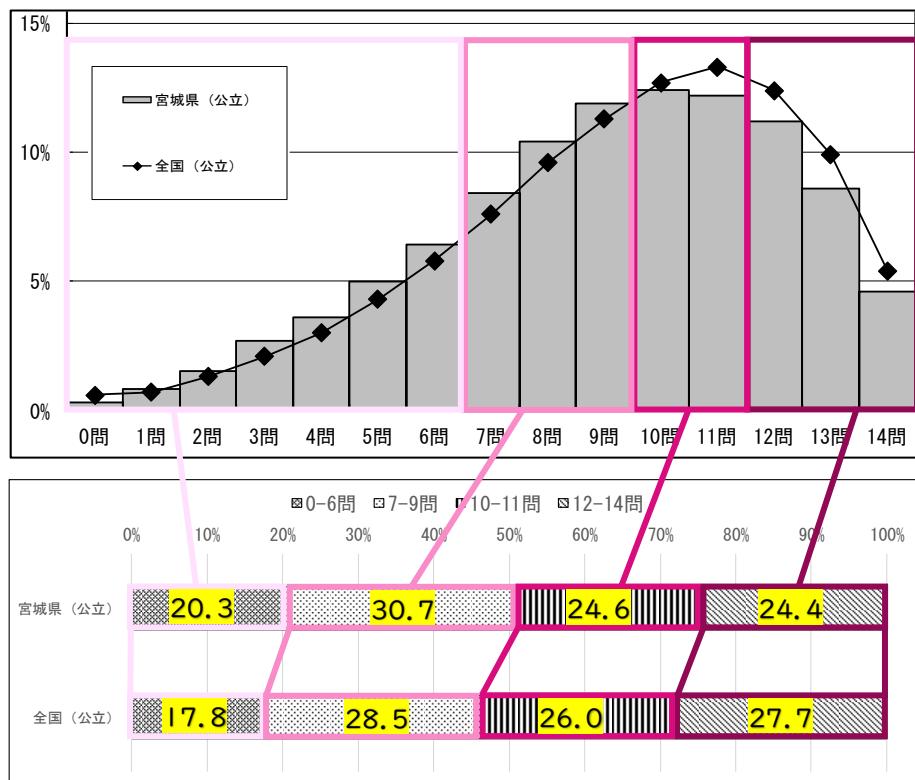


小学校国語科の調査結果

(1) 調査結果概況

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		/ 14		
宮城県(公立)	17,053	9.1 / 14	65	9.0
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	67	10.0

(2) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)と正答数ごとの層分布(全国四分位)

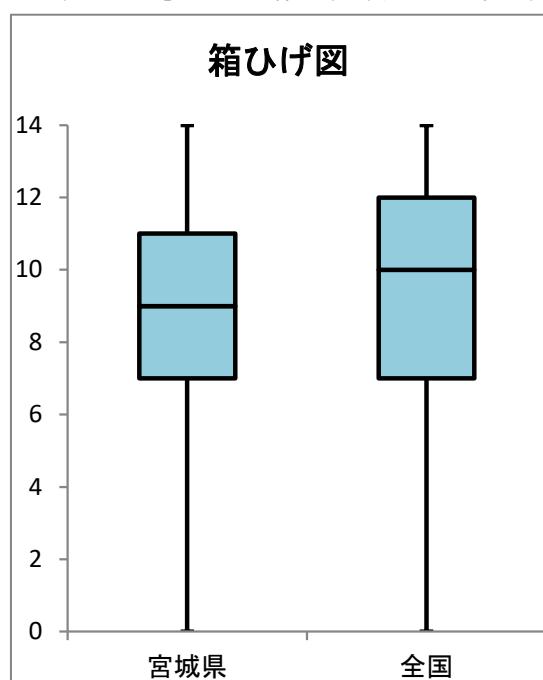


※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

	宮城県(公立)	全国(公立)
12~14問	24.4	27.7
10~11問	24.6	26.0
7~9問	30.7	28.5
0~6問	20.3	17.8

(単位:%)

★「箱ひげ図」による層分布(縦軸:正答数)



※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



(箱ひげ図作成 Excel ファイル)

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方	2	71.7	76.9
	(2)情報の扱い方	1	59.3	63.1
	(3)我が国の伝統文化	1	80.5	81.2
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.7	66.3
	B 書くこと	3	67.2	69.5
	C 読むこと	4	56.5	57.5

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
			県	自校
◇ 3一 選択式	(3)言語 文化	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	80.5 [-0.7P]	【 】
◇ 3二(1) 短答式	C 読む	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる	81.3 [-0.3P]	【 】
◆ 2三 記述式	B 書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	57.3 [-4.0P]	【 】
◆ 2四イ 短答式	(1)言葉 の特徴	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	64.2 [-7.9P]	【 】
◆ 3二(2) 選択式	C 読む	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを	48.7 [-2.6P]	【 】
◆ 3三(1) 選択式	C 読む	みる目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	40.6 [-0.2P]	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

・ [3三(2)] (C 読む) 《18.5%》【2.3P】

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

＜宮城県の傾向(小学校国語)＞

- 正答数の分布は、全国と比較すると、やや上位層が少なく下位層が多くなっています。箱ひげ図から、中央値がやや低く、全体的に下方に分布していることが分かります。
- 「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」は、比較的良好でした。
- 「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、「文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」、「目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」等に課題が見られました。

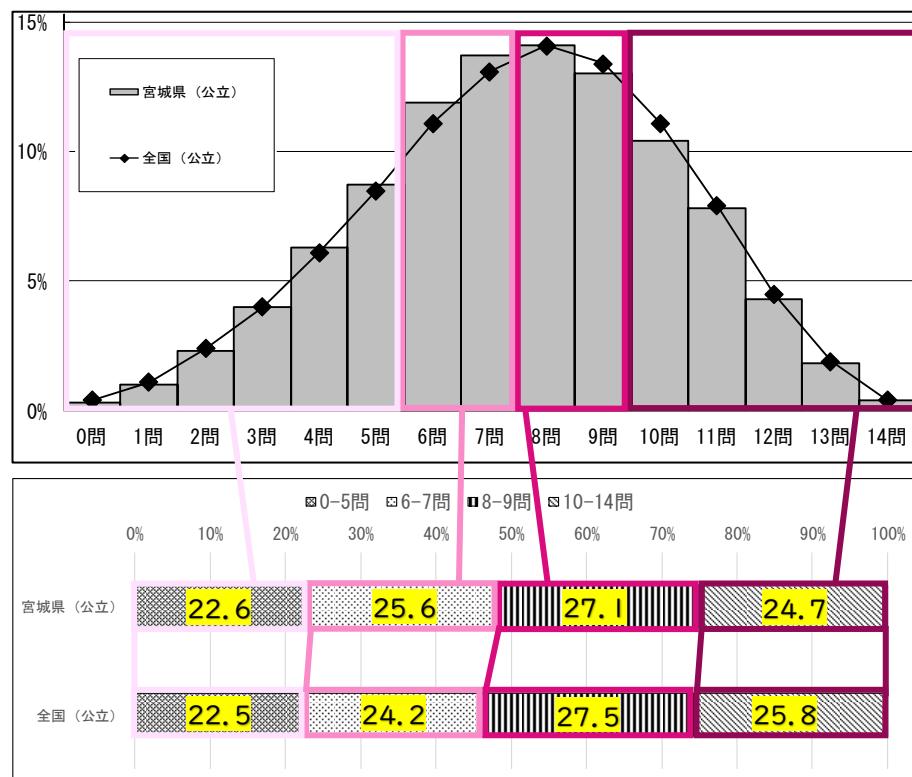


中学校国語科の調査結果

(1) 調査結果概況

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		/ 14		
宮城県(公立)	16,148	7.5 / 14	54	8.0
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54	8.0

(2) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)と正答数ごとの層分布(全国四分位)

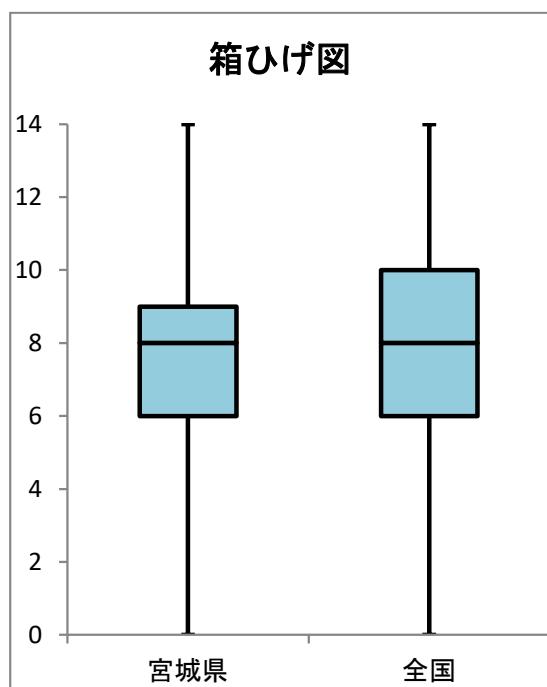


正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合(%)	
	宮城県(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)
14問	72	0.4	0.4
13問	284	1.8	1.9
12問	689	4.3	4.5
11問	1,261	7.8	7.9
10問	1,683	10.4	11.1
9問	2,106	13.0	13.4
8問	2,280	14.1	14.1
7問	2,214	13.7	13.1
6問	1,914	11.9	11.1
5問	1,406	8.7	8.5
4問	1,022	6.3	6.1
3問	642	4.0	4.0
2問	367	2.3	2.4
1問	154	1.0	1.1
0問	54	0.3	0.4

	宮城県(公立)	全国(公立)
10~14問	24.7	25.8
8~9問	27.1	27.5
6~7問	25.6	24.2
0~5問	22.6	22.5

(単位:%)

★「箱ひげ図」による層分布(縦軸:正答数)



	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	9.0問	10.0問
第2四分位	問	8.0問	8.0問
第1四分位	問	6.0問	6.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



[\(箱ひげ図作成 Excel ファイル\)](#)

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方	2	50.4	48.1
	(2)情報の扱い方	0		
	(3)我が国の伝統文化	0		
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.3	53.2
	B 書くこと	5	51.0	52.8
	C 読むこと	3	61.6	62.3

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

問題番号 ・形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
			県	自校
◇ 1二 選択式	B 書く	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできるかどうかを見る	83.1 【+0.6P】	【 】
◇ 3二 短答式	C 読む	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかを見る	89.5 【-0.4P】	【 】
◆ 1四 記述式	B 書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかを見る	27.5 【-3.5P】	【 】
◆ 2四 記述式	A 話す ・聞く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る	22.9 【-0.3P】	【 】
◆ 3四 記述式	C 読む	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかを見る	16.6 【-0.5P】	【 】
◆ 4一 短答式	B 書く	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る	51.6 【-5.7P】	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

- ・ [3四記述式] (C 読む) 《30.8%》【2.7P】※ 出題の趣旨は上記参照
- ・ [4一短答式] (B 書く) 《38.0%》【4.5P】※ 出題の趣旨は上記参照
- ・ [4二記述式] (B 書くこと) 《20.7%》【1.6P】

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る

＜宮城県の傾向(中学校国語)＞

- 正答数の分布は全国と同程度になっています。層分布の比較からは、上位層がやや少ないことが分かります。
- 「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える」は、比較的良好でした。
- 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」等に課題が見られました。
- 「短答式」「記述式」の正答率が全国平均正答率をやや下回り、特に無解答率が高いことに課題が見られました。



小学校 国語 (読むこと)

＜宮城県の児童の課題＞
目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける

課題が見られた調査問題

C 読むこと ウ【精査・解釈】

2 「資料1」の――――部^②
〔「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった「使い方」についています。〕

「言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なつとくしたことをまとめよう。」

（1）【話し合いの様子】の[A]に当てはまる内容として最も適切なものを、次の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合つとまことに困ると思うよ。だから、[資料1]に「A」と書かれていると思うよ。

本當だ。三十代から六十年代は本来の意味とはちがう「小雨が降つたりやんだりしている様子」とういふ人の割合が高いいね。

私は、この資料（資料4）を見つけたよ。これを見つけて、この資料（資料3）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることができない」と書かれていることについているよ。

【話し合いの様子】

〔3〕 木村さんは、「言葉の変化について田中さんと話
し合いながら、【資料1】を読み返しています。次
の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの（1）
と（2）の問い合わせに答えましょう。

結果・誤答分析

解答類型	自校	宮城県	全国
1	%	5.4%	5.2%
2	%	35.1%	33.9%
3 正答	%	40.6%	40.8%
4	%	16.2%	16.4%
無解答	%	2.5%	3.4%

田中さんが【資料4】を読んで考えた「人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思う」という考え方と、【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません」と書かれていることを結び付けて捉えることができなかった児童が多く見られました。誤答2を選択した児童の中には「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを【資料1】の「本来の意味」「本来とは違う使い方」の部分と結び付けて捉える児童がいたようです。誤答4を選択した児童の中には「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「言葉の変化」と捉えて、「言葉は生きている」とことと関係があると考える児童がいたようです。また、【話し合いの様子】の流れ 자체を捉えることができなかった児童も多くいたと考えられます。

以上のことから、【話し合いの様子】で示されている内容やつながりを把握する力、目的に応じて複数の資料から必要な情報を見付け、それらを適切に結び付けて解釈する力等に課題が見られると考えられます。

受業改善の視点

「読むこと」の領域で授業を行う際、「読む目的」によって「どのように読むのか」が変わってくるため、単元の指導前に、
学習指導要領で単元の指導事項を確認し、育成すべき力を明確にすることが大切です。

次に「この教材をどのように読んでいけば、その力が身に付くのか」を考えて単元を構想し、授業づくりに取り組みます。この調査問題は、「目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付ける」という指導事項が身に付いているかどうかをみるために設定されています。この指導事項が重点となっている単元では、授業の中で「**読む目的**」(例:～について考えるため)を明確にして、文章と図表などの関係を捉えて読んだり、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにして読んだりする、といった読み方(「**どのように読むのか**」)をすることができるよう指導することが大切です。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められます。

<宮城県の生徒の課題>

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

課題が見られた調査問題

C 読むこと ウ【精査・解釈】

(令和七年度全国学力・学習状況調査
中学校国語 大問3四)

四
□
で囲まれた部分には、兄弟が
目的を達成できなかつた場面のあとに続く話
が書かれています。あとに続く話は、「一 樅木
の実」にはありますが、「二 釣の話」にはあり
ません。このような展開になつていることは
「二人の兄弟」という物語においてどのような
効果があると考えますか。あなたの考えとその
理由を具体的に書きなさい。理由を書く際に
は、物語の内容を取り上げて書きなさい。

二 釣の話	〈本文〉	〈あとに続く話〉
一 樅木の実	島崎藤村	〈本文〉

〔3〕 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 樅木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、との問い合わせなさい。

結果・誤答分析

解答類型	自校	宮城県	全国
1 正答	%	16.6%	17.1%
2	%	0.1%	0.1%
3	%	32.4%	34.2%
9 9	%	20.1%	20.5%
無解答	%	30.8%	28.1%

正答の条件は次の3つの条件を満たして解答することです。

- ① どのような効果があるかを書いている。
- ② ①のように考えた理由を、「□」の部分のような『あとに続く話』が、『一 樅木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。
- ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

解答類型3（条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの）の反応率が、宮城県32.4%（全国34.2%）と高い値を示しています。他の小問の正答率とあわせて考えると、文章の内容理解や、そこから得られる教訓、あるいは個別の表現がもたらす効果については考えられていますが、構成や展開について根拠を明確にして考えることにつまづいていることが分かります。

無解答率が30%を超えていることからも、二つの文章を読み比べた上で、それぞれを構造的に捉える学習や、構成や展開が全体としてどのような「効果」を生み出しているのかを考える学習の質の向上が求められます。

授業アイディア例（国立教育政策研究所）
「文学的な文章を読む（二人の兄弟）」（第1学年）

授業改善の視点

本問題の無解答率は、宮城県30.8%（全国28.1%）と非常に高くなりました。

授業では、生徒が次のようなことに取り組む機会を意図的に取り入れましょう。

- ・正解が1つではないことについて、自分の考えを持つ。
- ・考える際は、自分なりの意味付けをする。
- ・自分の考えの根拠を本文に求める。
- ・書くことで、自分の読みを確かめる。

生徒の発言や書いた内容については、妥当性や真偽について是非を問うことが大切です。この場面で、生徒同士で検討したり討論したりする場面を作ると、授業が活性化し「読む」力が付きます。

生徒の「おや？それでいいのかな？」という知的好奇心を満たす機会を作りましょう。

また、[知識・技能]として、典型的な表現効果を整理しておくことは重要です。例えば、ICTを活用し、クラス全員の知識を集約・共有することができます。この知識の可視化とデータベース化により、生徒は学習内容を時間や場所を選ばずいつでも参照できるようにしておくことも有効です。



（ICT活用例）生徒が、表現の効果を付箋アプリに投稿したイメージ

授業づくりのステップ（例）

参考:[R5 宮城県検証改善委員会報告書](#) (P31~33)

単元の「指導事項（育成する資質・能力）」を確認する

Step
1

- ・自校で作成した年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。
- ・「学習指導要領解説国語編」で、重点とする指導事項の解説を読む。
→この Step 以降でも必要に応じて指導事項に立ち返ると、授業の方向性が確かになる。

学習の系統と児童生徒の実態を押さえる

Step
2

- ・同領域の既習単元でどのような資質・能力を身に付けたのか、この単元での学びが今後どの単元の学習につながるのかを確認する。
- ・指導事項についての児童生徒の実態を押さえる。
→具体的な指導・支援の手立てが見えてくる。

教材を読む（特に重点指導事項と照らし合わせて）

Step
3

- ・児童生徒の読みを予想する（疑問を持つ部分、つまずく部分等）。
- ・重点指導事項を踏まえ、教材の扱い方（切り口）を検討する。
→同じ教材でも重点指導事項によって単元計画が異なる。

「単元目標」と「言語活動」を設定する

Step
4

- ・目標は単元内で指導（評価も）可能な数に絞って設定する。
- ・指導事項や児童生徒の発達、学習の状況に応じた言語活動を設定する。

「評価規準」を設定する

Step
5

- ・目標と対応させて単元の「評価規準」を設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強い取組を行おうとする」「自らの学習を調整しようとする」2つの側面を評価することに留意する。

単元計画（各時間の「学習過程」と評価の計画）を設定する

Step
6

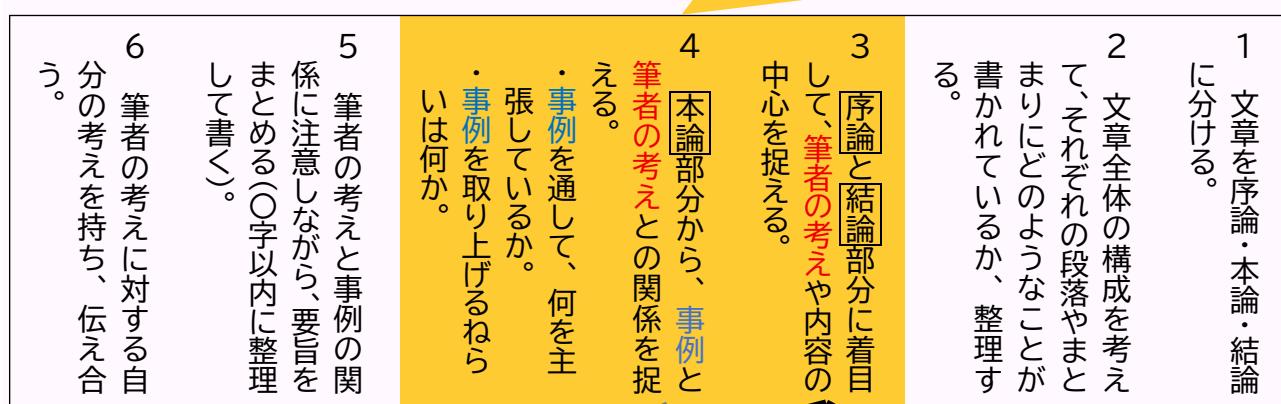
- ・単元の学習を通して、資質・能力を育成できるように学習活動を設定する。
- ・評価の場面（学習活動）、評価の方法、評価規準を設定する。
- ・評価規準について、実際の学習活動を踏まえ「おおむね満足できる状況（B）」「努力を要する」状況（C）への手立てを想定する。

○「指導事項」による単元計画の相違 小学校5年 (説明的な文章)

【単元の重点指導事項】C (1) ア「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」

の場合

★事実（事例）と意見（筆者の考え）の関係を押さえること、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することが単元の重点指導事項であるため「3」「4」の活動に重点を置いて指導する。



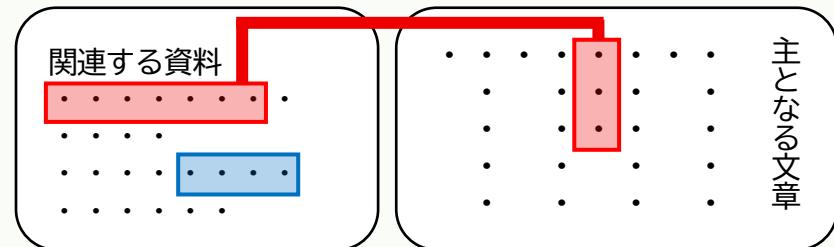
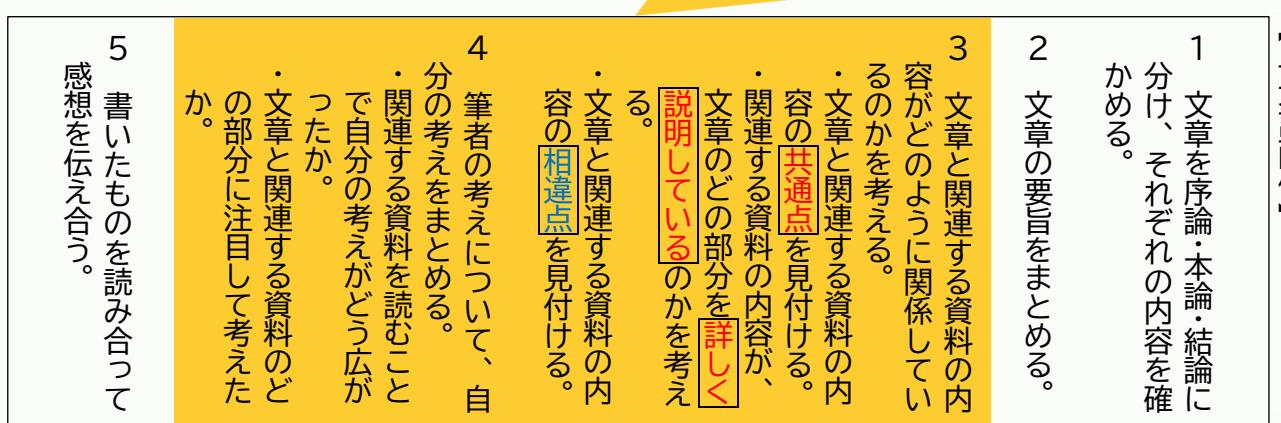
〔重刊〕

指導事項が異なると…

【単元の重点指導事項】 C (1) ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」

の場合

★目的に応じて複数の情報を重ね合わせて読み、自分の考えを広げたり深めたりすることが単元の重点指導事項であるため「3」「4」の活動に重点を置いて指導する。

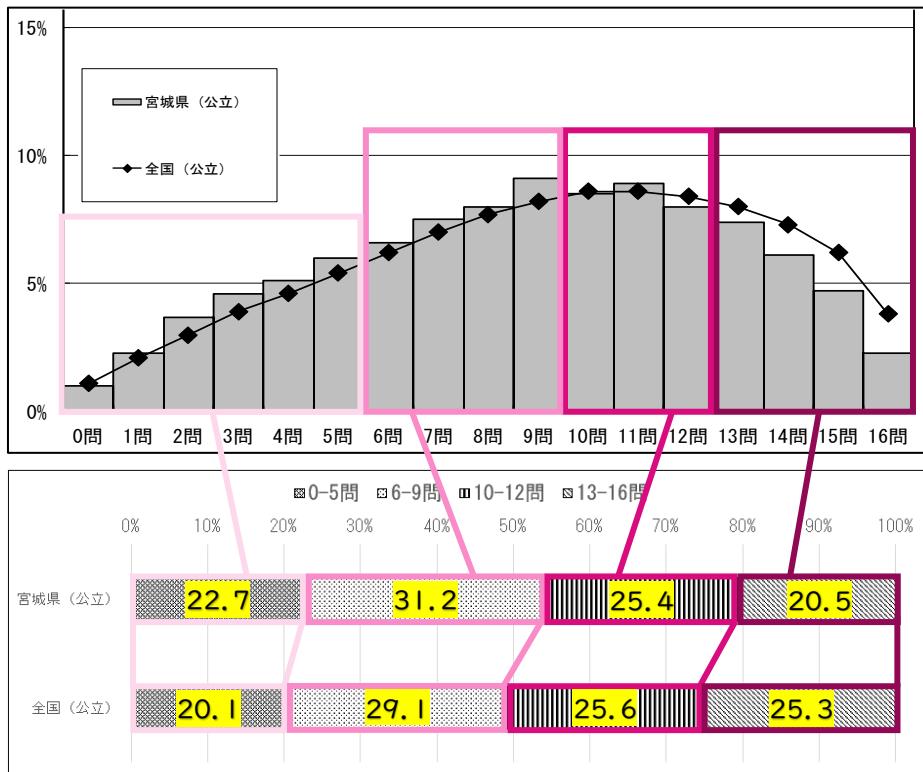


小学校算数科の調査結果

(1) 調査結果概況

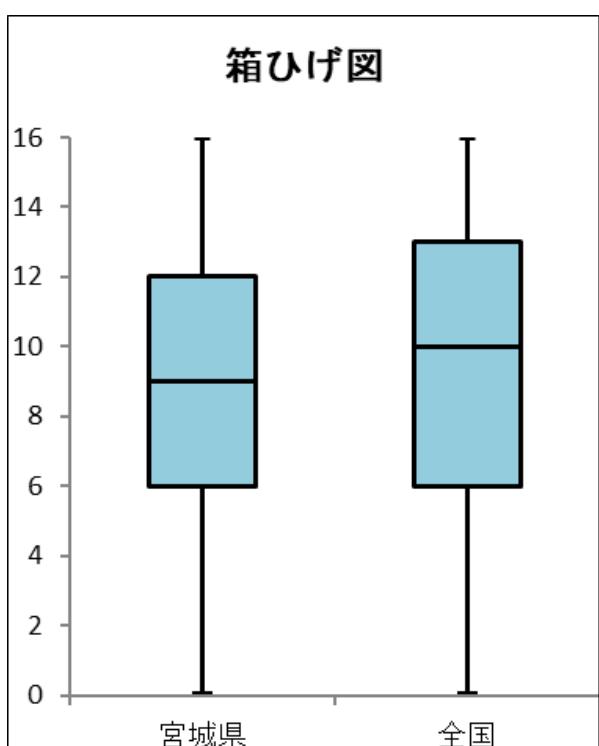
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		／ 16		
宮城県(公立)	17,049	8.8／16	55	9.0
全国(公立)	936,399	9.3／16	58	10.0

(2) 正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）と正答数ごとの層分布（全国四分位）



※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

★「箱ひげ図」による層分布（縦軸：正答数）



	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	12.0問	13.0問
第2四分位	問	9.0問	10.0問
第1四分位	問	6.0問	6.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



[\(箱ひげ図作成 Excel ファイル\)](#)

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
A 数と計算	8		59.8	62.3
B 図形	4		53.2	56.2
C 測定	2		50.1	54.8
C 変化と関係	3		54.4	57.5
D データの活用	5		59.9	62.6

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

	問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
				県	自校
◇	4(1) 選択式	B 図形	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	81.0 [-1.8P]	【 】
◆	1(2) 記述式	D データ の活用	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	26.9 [-4.1P]	【 】
◆	2(2) 選択式	B 図形	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	43.6 [-6.6P]	【 】
◆	2(4) 記述式	B 図形	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	31.9 [-5.1P]	【 】
◆	3(2) 記述式	A 数と 計算	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	19.2 [-3.8P]	【 】
◆	3(3) 短答式	A 数と 計算	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	33.4 [-1.6P]	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

・[3(2)記述式] (A 数と計算) 《19.8%》【4.1P】 ※ 出題の趣旨は上記参照

＜宮城県の傾向(小学校算数)＞

- 正答数の分布は、全国と比較して上位層が少なく、下位層が多くなっています。箱ひげ図から、中央値がやや低く、全体的に下方に分布していることが分かります。
- 「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす」は比較的良好でした。
- 「台形の意味・性質の理解」「基本図形に分割して図形の面積を求める」「分数を単位分数の幾つ分と捉えること」等に課題が見られました。
- 「短答式」「記述式」の問題では正答率が低いことに加え、無解答率が高く、自分の考えを図や式、言葉を用いて表現することにも課題が見られました。



<宮城県の児童の課題>

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、**共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できる**

課題が見られた調査問題

A 数と計算 イ【ア】

(令和7年度全国学力・学習状況調査 小学校算数 大問3(2))

- 3 (2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2+1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

平均正答率	自校	宮城県	全国
	%	19.2%	23.0%
無解答率	自校	宮城県	全国
	%	19.8%	15.7%

国立教育政策研究所 授業アイディア例
「計算の仕方について統合的・発展的に考察すること(小数と分数)」
 (第5学年)

結果・誤答分析

【正答の条件】①～③の全てを書いている。

- ① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉
- ② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つかを表す数や言葉
- ③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つかを表す数や言葉

【反応率の高い解答】

正解: ①～③の全てを書いているもの 19.2% (全国 23.0%)

誤答: 通分について書いているもの 25.7% (全国 26.2%)

誤答: ①を書いているもの 7.1% (全国 6.1%)

本問題において「共通する単位分数」が $\frac{1}{12}$ であることを表す記述ができていた児童は全体の3割程度でした。3(4)の分数の足し算の正答率は8割程度で、多くの児童が分母をそろえる「通分」を用いた計算は知っていますが、なぜ共通する単位分数にそろえているのかという考え方を理解していないことを示しています。また、下位群の4割以上の児童が無解答であり、中位群の3～4割の児童は通分について記述していますが、共通する単位分数が $\frac{1}{12}$ であること、それぞれ共通する単位分数の幾つかであることは記述できませんでした。よって、**分数の概念形成を図りながら、計算の意味を理解させていくことが課題**であると考えられます。

授業改善の視点

「概念理解」から「数学的な見方・考え方」へとつなぐ授業を意識しましょう



1 概念の形成を目指す視点

1) **具体物や数直線**を活用し、分数の構成要素(例:最小の単位 $\frac{1}{12}$ の幾つ分)を**具体的な操作を通じて視覚化**させ、その**理解**を**数や量として結び付け**ます。

2) 「 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ が9個分…」と単位の個数に着目して言語化させ、「 $9+8=17$ 」という**整数の足し算と概念を統合**します。

2 数学的な見方・考え方を意識した授業づくりの視点

1) 既習事項である $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ のように、単位分数 $\frac{1}{5}$ を「基にする数」とみなす考え方を、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ における「共通の単位分数」を見付ける活動に応用する、という**思考の流れを明確に示**します。

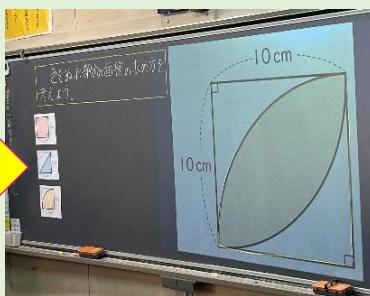
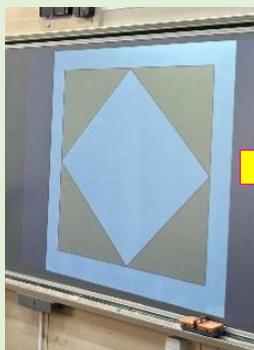
2) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ では、「この2つの分数に共通の単位分数 $\frac{1}{12}$ を見付けることで、同分母や整数の足し算と同じ構造で解ける」という**数学的な見方・考え方を働かせるための発問・指示**等を行います。

①A小学校の実践（単元：第6学年「円の面積」～円の一部を含む複合図形の面積～）

導入場面の工夫を考える

導入（実際の授業から）

<円を含まない複合図形> <円の一部を含む複合図形>



Check!

○ 問題場面の提示

- ⇒ 「正方形から中の正方形を引く」場面を提示する。
- ⇒ 本時の問題場面を提示する。
- ⇒ 「既習の图形をどのように組み合わせればよいか」という問い合わせをさせる。

○ 主体的な学習を促す視点

- ⇒ 既習事項との比較による共通点や相違点
- ⇒ 経験との関連
(これまでの経験と学習内容の結び付き)

②B小学校の実践（単元：第5学年「四角形と三角形の面積」～台形の面積の求め方を考えよう～）

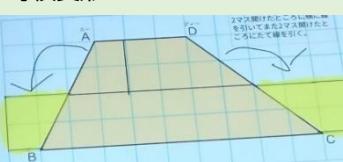
展開場面の工夫を考える

展開（実際の授業から）

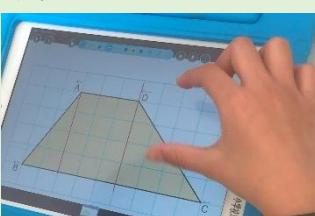
<倍積変形>



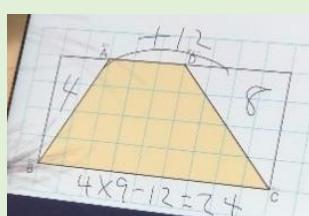
<等積変形>



<分割>



<付け足し>



Check!

○ 児童の反応を予想した手立て

- ⇒ 既習事項から「倍積変形」「等積変形」「分割」「付け足し」等の考え方が出ると予想する。
- ⇒ 個々の考え方について、何に着眼し、どのような方法で解決しようとしているかを確認する。
(数学的な見方・考え方の確認)

○ 取り上げる考え方と提示の仕方

- ⇒ 児童の考え方の根拠を引き出す発問を考える。
(例)「台形を2つ組み合わせたのはなぜですか。」
- ⇒ 取り上げる考え方を比較検討する視点の焦点化。
(例)「どの考え方にも共通する考え方は何ですか。」「取り上げた考え方の違いは何ですか。」

さっそく教材研究をしてみましょう

【ワークシート例】

<本時の目標・ねらい>

(1) 本時の授業構想のポイント

①本時の学習課題

②既習との関連

③働きかせたい「見方・考え方」

④留意事項

<本時の評価・評価規準>

(2) 子供の反応

①予想される反応

②予想されるつまずきとつまずきに対する手立て

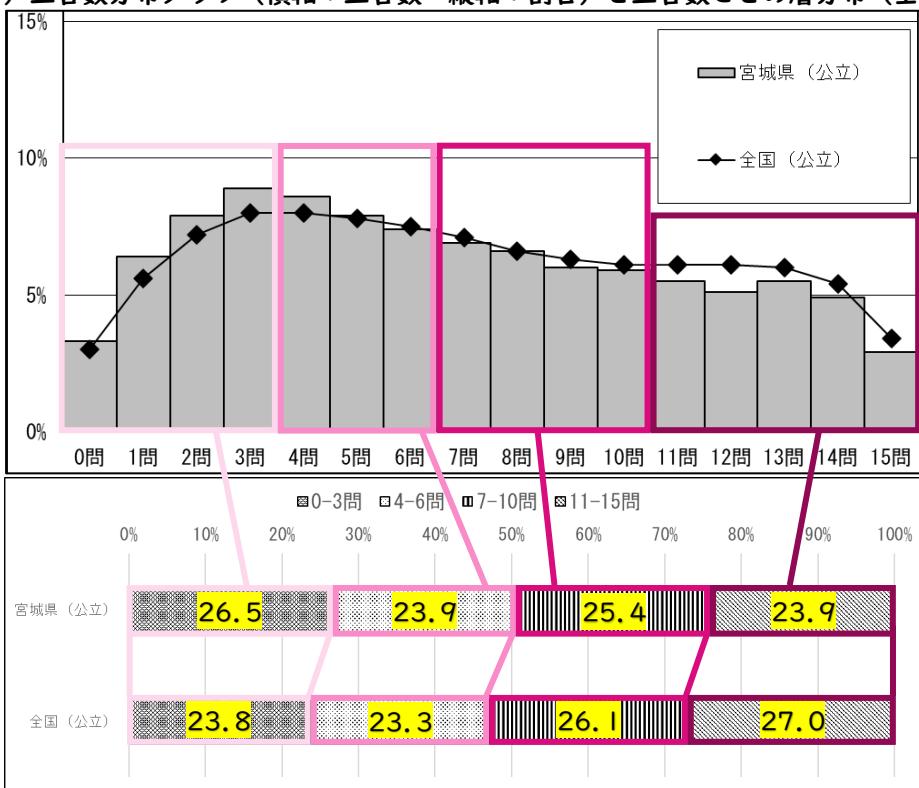
(3) 終末時に取り組ませたい活用問題

中学校数学科の調査結果

(1) 調査結果概況

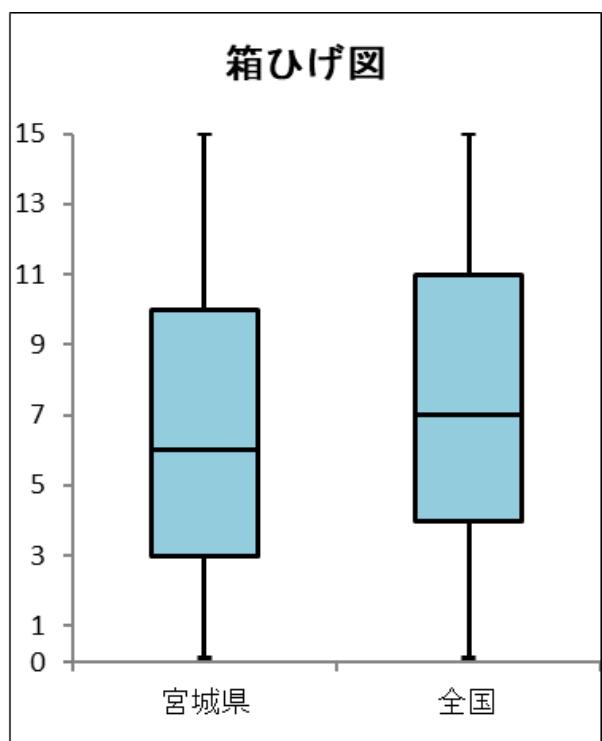
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		／ 15		
宮城県(公立)	16,166	6.9／15	46	6.0
全国(公立)	871,097	7.2／15	48	7.0

(2) 正答数分布グラフ (横軸: 正答数 縦軸: 割合) と正答数ごとの層分布 (全国四分位)



※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

★「箱ひげ図」による層分布 (縦軸: 正答数)



	宮城県(公立)	全国(公立)
13~16問	23.9	27.0
10~12問	25.4	26.1
6~9問	23.9	23.3
0~5問	26.5	23.8

(単位: %)

	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	10.0問	11.0問
第2四分位	問	6.0問	7.0問
第1四分位	問	3.0問	4.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excel ファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



[\(箱ひげ図作成 Excel ファイル\)](#)

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
A 数と式	5		40.4	43.5
B 図形	4		45.2	46.5
C 関数	3		47.1	48.2
D データの活用	3		54.9	58.6

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
			県	自校
◇ 6(1) 短答式	A 数と式	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかを見る	64.5% 【+1.7P】	【 】
◇ 9(1) 選択式	B 図形	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかを見る	58.6% 【+0.1P】	【 】
◆ 1 選択式	A 数と式	素数の意味を理解しているかどうかを見る	27.6% 【-4.2P】	【 】
◆ 5 短答式	D データ の活用	相対度数の意味を理解しているかどうかを見る	36.9% 【-5.6P】	【 】
◆ 6(3) 記述式	A 数と式	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る	38.5% 【-6.7P】	【 】
◆ 8(2) 記述式	C 関数	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る	35.4% 【-2.6P】	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

- ・[5短答式] (Dデータの活用) 《11.1%》【1.7P】 ※出題の趣旨は上記参照
- ・[6(2)記述式] (A数と式) 《29.0%》【4.1P】
式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る
- ・[6(3)記述式] (A数と式) 《23.2%》【3.0P】 ※出題の趣旨は上記参照
- ・[8(2)記述式] (C関数) 《39.6%》【4.6P】 ※出題の趣旨は上記参照
- ・[9(3)記述式] (D図形) 《33.5%》【2.0P】 ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかを見る

＜宮城県の傾向(中学校数学)＞

- 正答数の分布は、全国と比較してばらつきがやや大きく、特に2~5問正答の生徒の割合が高くなっています。箱ひげ図からは全体的に下方に分布していることが分かります。
- 「常に成り立つとは限らないことを説明する場面で反例をあげる」「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだす」は、比較的良好でした。
- 「素数や相対度数の意味理解」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」等に課題が見られました。
- 「記述式」の問題では正答率が低いことに加え、無解答率が高く、自分の考えを図や式、言葉を用いて数学的に表現することに課題が見られました。



<宮城県の生徒の課題>

事象の中にある関数関係を見いだし（数学的に解釈し）、問題解決の方法を数学的に説明する

課題が見られた調査問題

C 関数 イ【イ】

(令和7年度全国学力・学習状況調査 中学校数学 大問8(2))

- 8 A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、スタジアム近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅からの走行距離と運賃を調べ、次のような表とグラフにまとめました。（問題文は簡略化したもの。（1）は省略）

調べた結果

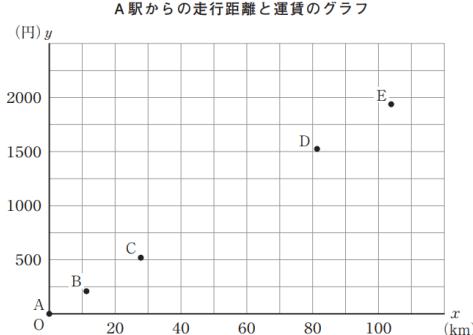
	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

(2)

新しい駅はA駅から 60.0 kmの地点につくられることがわかり、A駅から新しい駅までの運賃を予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、A駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。



平均正答率	自校	宮城県	全国
	%	35.4%	38.0%
無解答率	自校	宮城県	全国
	%	39.6%	35.0%

国立教育政策研究所 授業アイディア例
[「日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること」](#)（第1学年）

結果・誤答分析

<正答例（グラフを用いた場合）>
 点Aから点Eをもとに直線のグラフをかき、x座標が60のときのy座標を読む。

◇グラフ、または式、表を用いて正答したもの 35.4%（全国 38.0%）
 ◇記述はしたが、内容が不十分で誤答のもの 20.8%（全国 22.4%）
 ◇無解答 39.6%（全国 35.0%）

グラフ、または式、表、数値を用いて記述している生徒の割合が全国より少ないとから、「問題解決の方法を数学的に説明する」ことに課題があることがうかがえます。また、記述はしたもの、内容が不十分だった生徒も2割程度いることから、解決の見通しは持たせるものの、それを数学的に表現できなかつた生徒がいたことも考えられます。さらに、無解答の生徒が4割近くいることから、解決の見通しが持てず、何を記述して良いか分からなかつた生徒が多かつたことがうかがえます。

授業改善の視点

授業の中に、対話や自分の考えを表現する場面を意図的に設定しましょう



<導入：問題把握や問題解決の見通しの場面>

○問題把握の場面では、教師と生徒の対話を通して全員が問題を理解できるようにしましょう。

○問題解決の見通しを持たせる場面では、「既習事項を生かすこと」を意識させましょう。

<展開：自力解決や集団解決（検討）の場面>

○自力解決の後半に、ペアや少人数で考えを伝え合う時間を設定し、考えを表現させましょう。

○生徒の発表後は、教師は大切な点などを全体に「問い合わせ」ことで、生徒の理解を深めましょう。

<終末：振り返りの場面>

○問題解決の方法を、数学の用語を用いながら再度生徒がまとめる時間を設定しましょう。

主 体的

対 話的で

深 い学び

課題から迫る授業改善・教材研究

中学校
数学
(数と式)

数と式領域における授業実践例を基に、教材研究のポイントを考えます

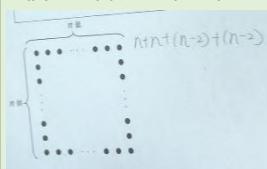
①C中学校の実践（単元：第1学年「文字と式」～文字式の利用～）

「個別→交流→まとめ」の工夫を考える

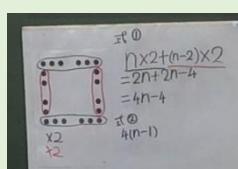
Check!

展開（実際の授業から）

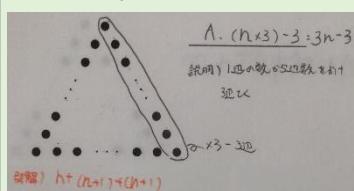
<個人で課題に取り組む>



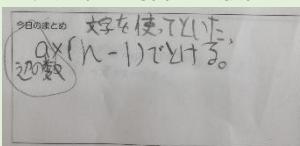
<グループでまとめる>



<まとめの問題>



<多角形の場合に一般化>



○ 個別活動の深化

⇒ 文字の必要性を自覚させる課題設定。

(試行錯誤 → 一般化)

○ 交流活動の質の向上

⇒ 単純な発表や答え合わせのみにとどめない。

⇒ 複数の表現（式）の意味を、数学の用語を使って比較・検討する活動を設定。

○ まとめの再構築

⇒ 文字を使う「良さ」を再び確認・共有する。

⇒ 汎用性を確認する。

⇒ 上位層向けに、概念や原理を更に一般化する活動を設定する。

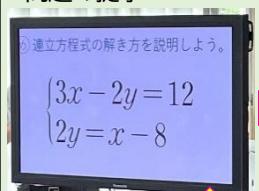
②D中学校の実践（単元：第2学年「連立方程式」～連立方程式を複数の解法で解こう～）

複数の解法から「数学的な見方・考え方」を深める工夫を考える

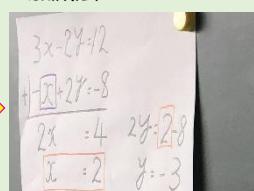
Check!

展開（実際の授業から）

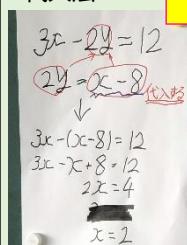
<問題の提示>



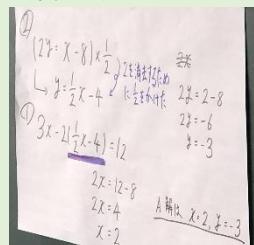
<加減法>



<代入法>



<代入法>



○ 「手続き」ではなく「原理」を対比する

⇒ 何を目的とし、どの知識が活用されているかを言語化する。

⇒ 数学的な概念の共通性の深い理解を促す。

○ 解法を選択する

⇒ 「どれがよりよいか」を検討・判断する場面を設定する。

⇒ 「効率性」「汎用性」の観点から最適な解法を判断する力を育成する。

○ 知識を統合する

⇒ 既習の知識とどう結び付いているかを発見することで、「生きた知識」の獲得につなげる。

○ 学習内容を日常と関連付ける

⇒ 数学の有用性を実感する場面を設定する。

⇒ 学んだ概念がどのように活用されているかを多角的に考察する。

さっそく教材研究をしてみましょう

【ワークシート例】

<本時の目標・ねらい>

(1) 本時の授業構想のポイント

①本時の学習課題

②既習との関連

③働きかせたい「見方・考え方」

④留意事項

<本時の評価・評価規準>

(2) 子供の反応

①予想される反応

②予想されるつまずきとつまずきに対する手立て

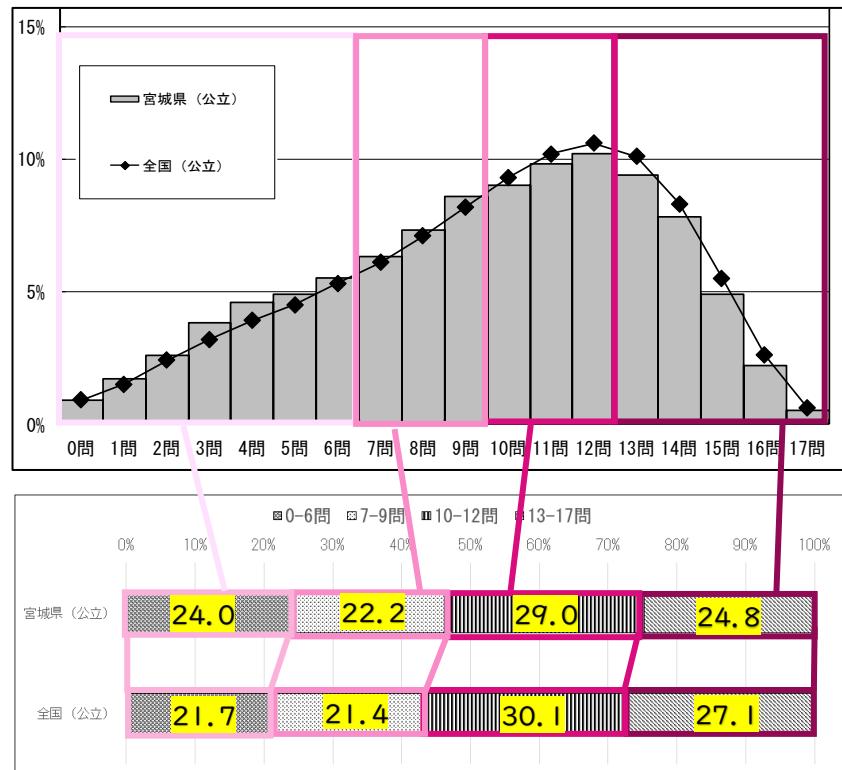
(3) 終末時に取り組ませたい活用問題

小学校理科の調査結果

(1) 調査結果概況

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値
自校		/ 17		
宮城県(公立)	17,039	9.4 / 17	55	10.0
全国(公立)	936,576	9.7 / 17	57	10.0

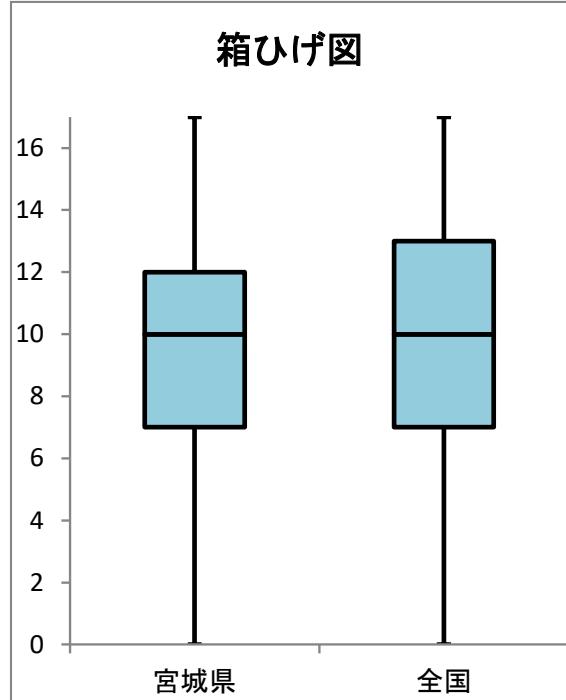
(2) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)と正答数ごとの層分布(全国四分位)



正答数	児童数	割合(%)	
		宮城県(公立)	全国(公立)
17問	82	0.5	0.6
16問	371	2.2	2.6
15問	843	4.9	5.5
14問	1,324	7.8	8.3
13問	1,606	9.4	10.1
12問	1,739	10.2	10.6
11問	1,663	9.8	10.2
10問	1,533	9.0	9.3
9問	1,464	8.6	8.2
8問	1,238	7.3	7.1
7問	1,073	6.3	6.1
6問	942	5.5	5.3
5問	831	4.9	4.5
4問	784	4.6	3.9
3問	655	3.8	3.2
2問	448	2.6	2.4
1問	289	1.7	1.5
0問	154	0.9	0.9

※全国の学力層(四分位)と同じ区切りで宮城県の学力層(四分位)を比較

★「箱ひげ図」による層分布(縦軸:正答数)



	宮城県(公立)	全国(公立)
13~17問	24.8	27.1
10~12問	29.0	30.1
7~9問	22.2	21.4
0~6問	24.0	21.7

(単位:%)

	自校	宮城県(公立)	全国(公立)
第3四分位	問	12.0問	13.0問
第2四分位	問	10.0問	10.0問
第1四分位	問	7.0問	7.0問

※自校の学力層(四分位)を算出し、全国・宮城県と比較

以下のリンクをタップし、「Excelファイル」をダウンロードして自校の四分位を入力すると、箱ひげ図に表示して全国、宮城県と比較できます。ぜひご活用ください。



(箱ひげ図作成 Excel ファイル)

(3) 領域別の平均正答率

領域	問題数	正答率(%)		
		自校	宮城県 (公立)	全国 (公立)
A エネルギー	4		44.0	46.7
A 粒子	6		49.8	51.4
B 生命	4		51.1	52.0
B 地球	6		65.3	66.7

(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所HP)

△	問題番号 形式	領域	出題の趣旨	正答率(%)【全国との差】	
				県	自校
◇	1(1) 短答式	B 地球	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	77.9 [-1.6P]	【 】
◆	1(3) 選択式	B 地球	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	75.3 [-2.5P]	【 】
◆	2(3) 短答式	A エネルギー	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	76.4 [-1.6P]	【 】
◆	2(1) 選択式	A エネルギー A 粒子	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	9.5 [-1.1P]	【 】
◆	2(4) 選択式	A エネルギー	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	49.9 [-5.2P]	【 】
◆	3(4) 記述式	B 生命	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる	29.8 [-0.1P]	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

・[1(2)記述式](B地球)《11.1%》【2.6P】

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる

・[3(4)記述式](B 生命)《15.2%》【3.8P】※ 出題の趣旨は上記参照

<宮城県の傾向(小学校理科)>

○正答数の分布は、全国と比較してばらつきがやや小さく、特に3~5問正答の児童の割合が高くなっています。箱ひげ図からは、上位層が少ないことが分かります。

○「変える条件と変えない条件を整理しながら、実験方法を発想し、表現する」は、比較的良好でした。

○「電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識」や、「種子の発芽条件について新たな課題を見だし表現する」等に課題が見られました。

○結果を基に考察し、その理由を表現することや無解答率の高さに課題が見られました。



<宮城県の児童の課題>

自然の性質や規則性を応用し、**学習したことを知識と関係付けて**深く理解し、問題を解決する

課題が見られた調査問題



フェンシングには、相手より先に剣を当てるに得点になる種目がある。



どちらが先に剣を当てたか、電気の性質を利用して、音や光で知らせている。

(令和7年度全国学力・学習状況調査 小学校理科 大問2)

2

てつやさんといおりさんは、フェンシングについて調べています。

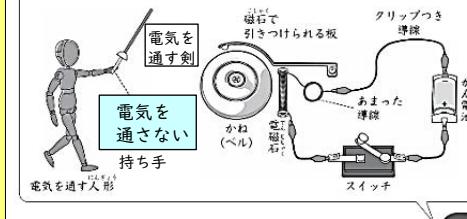
てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



自分の剣を相手に当てたときかね(ベル)が鳴り得点を知らせるようにしたいね。



これらの物を使ってつくることはできないかな。



(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4

までのなかからそれぞれ一つ選んでその番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 電気を通し、磁石に引き付けられる。
- 電気を通し、磁石に引き付けられない。
- 電気を通さず、磁石に引き付けられる。
- 電気を通さず、磁石に引き付けられない。

平均正答率の比較

平均正答率

自校

宮城県

全国

%

9.5%

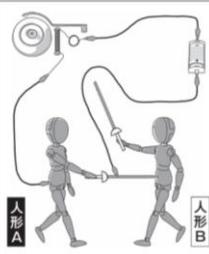
10.6%

結果・誤答分析

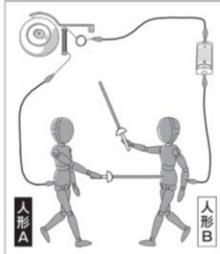
誤答した児童の多くがアルミニウム、鉄、銅のいずれかが「電気を通さない」と認識しています。小学校3年生で「金属は電気を通す」ことを学習しますが、「アルミニウム、鉄、銅」といった具体的な物質名と性質との結び付きについて十分に定着していなかったと考えられます。また、金属が電気を通すと正しく判断できた児童の中でも、正答に至らないケースが見られました。その要因として、「金属であれば全て磁石に引きつけられる」と捉えているためと予想されます。鉄は磁石につきますが、アルミニウムや銅はつかないという性質の違いを正確に区別できていないなど、基礎的な知識の定着に課題が見られました。

(2) 人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのなかから1つ選んで、その番号を書きましょう。

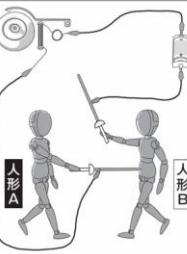
1



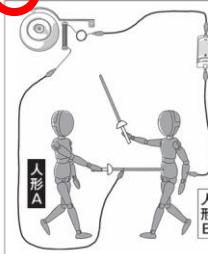
2



3



4



結果・誤答分析

	反応率	解答類型
誤答1	7.3%	1と解答
誤答2	20.6%	2と解答
誤答3	33.2%	3と解答
正答	38.1%	4と解答
誤答4	0.3%	上記以外の解答
	0.6%	無解答

平均正答率の比較

平均正答率	自校	宮城県	全国
	%		
	40.4%	42.9%	

問題解決の過程を通して、「実験結果を分析・解釈し、表現する力」を高める授業づくりを考えよう

題材・素材研究

問題解決の過程

自然事象への気付き

問題の設定

予想や仮説の設定

検証計画の立案

観察・実験

結果の処理

考 察

～児童質問調査と教科の

クロス集計から～

「理科の授業で観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」という質問の回答結果から、観察や実験から得た結果を深く考察する児童ほど、理科の正答率が高いことが明らかになっています。

結論の導出

ワークシート例

1 題材・素材研究から

本単元(本時)における科学的知識、題材・素材のおもしろさや魅力

2 自然事象の気付きから問題設定まで

児童から問い合わせを引き出す手立ての工夫(観察・実験の着眼点)

3 考察から結論まで

児童に働きかせたい「理科の見方・考え方」を引き出す手立ての工夫

題材・素材の価値を見いだす

- 理科的内容の正しい知識(科学的知識)の理解を深める。(教科書、指導書や専門書の活用、観察や予備実験等による調査)
- 理科的内容のおもしろさや魅力、可能性等を明確にする。

児童から「問い合わせ」を引き出す

- 既習事項や生活体験などから、事象が起きる理由を予想させる。
- 児童の予想とは異なる事象を提示して疑問を持たせる。

事実と解釈を入れた考察を書かせる働き掛け

- 事実(実験結果)を書く。
 - ・タブレット等で実験結果を表やグラフに整理する。
⇒グラフ作成の時間短縮
⇒結果の定量的な把握
- グループ内で互いに考えを検討する。
⇒自分の考えと他者の考えの共通点や差異点を見いだす。
⇒互いの意見が実験結果を根拠にしているか確認する。
- 事実と、互いの考えを比較検討して確認した根拠を基に、事象が起きる理由を自分の言葉で説明し、結論へと導き出す。



(例) 鉄も、銅も、アルミニウムも金属です。これらは全部、電気が通ったね。このことから、どんな「きまり」が言えそうかな?

(「事実」と「解釈」を入れた考察の例) 青: 事実、赤: 解釈
アルミニウムはく、1円玉や10円玉(銅)、はさみの切る部分(鉄)は電気を通したが、紙や木、プラスチックは、電気を通さなかった。
このことから、金属の仲間は電気を通すきまりがあることが分かった。

※ 授業アイディア例(国立教育政策研究所)「花のつくりや受粉、発芽の条件」

中学校理科の調査結果

「IRT(項目反応理論)」：生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論。

(1) 調査結果概況

	生徒数	平均正答数(公開共通問題)
自校		／ 6
宮城県(公立)	15,992	2.8／6
全国(公立)	863,634	2.9／6

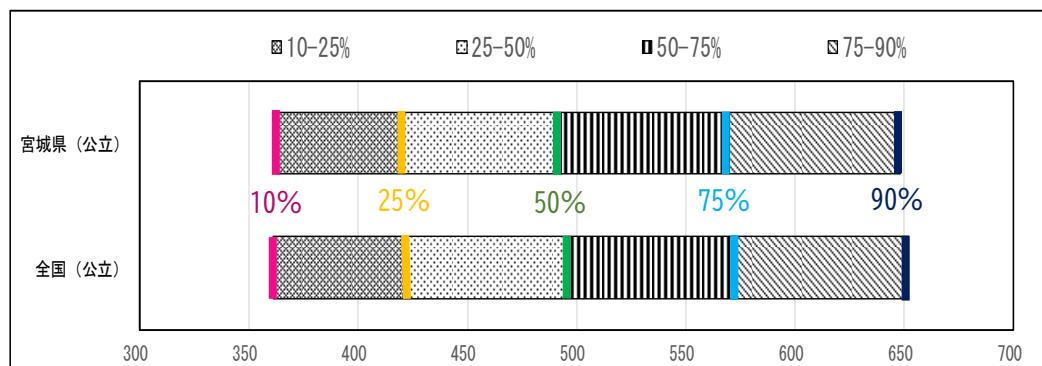
<パーセンタイル値>

データ全体を小さい順に並べたときに、下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。

	生徒数	※平均 IRT スコア	パーセンタイル値(★)				
			10%	25%	50%	75%	90%
自校							
宮城県(公立)	15,992	503	363	421	493	570	648
全国(公立)	863,634	503	361	422	495	572	652

※ 各パーセンタイル値を(2)のグラフの中でも表示しています。

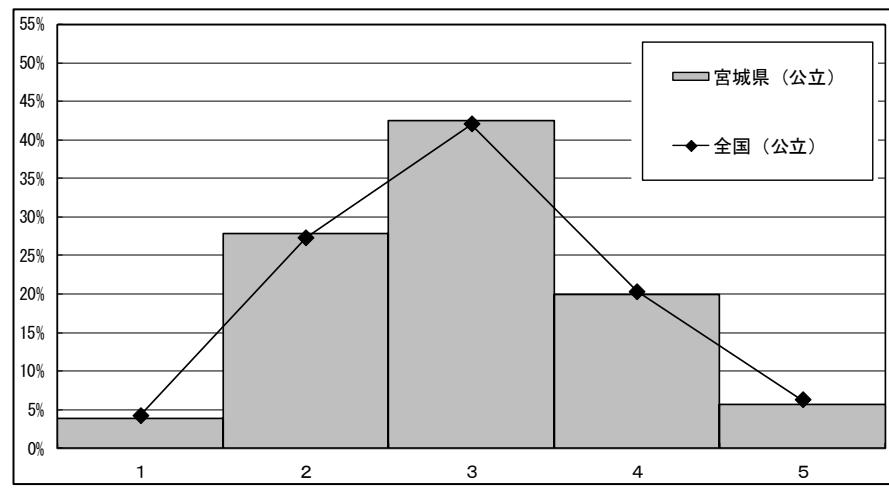
(2) IRT スコア(★) 分布グラフ(パーセンタイル値: 10%、25%、50%、75%、90%)



<IRT スコア>

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

(3) IRT バンド(★) 分布グラフ(横軸:※IRT バンド、縦軸:割合)

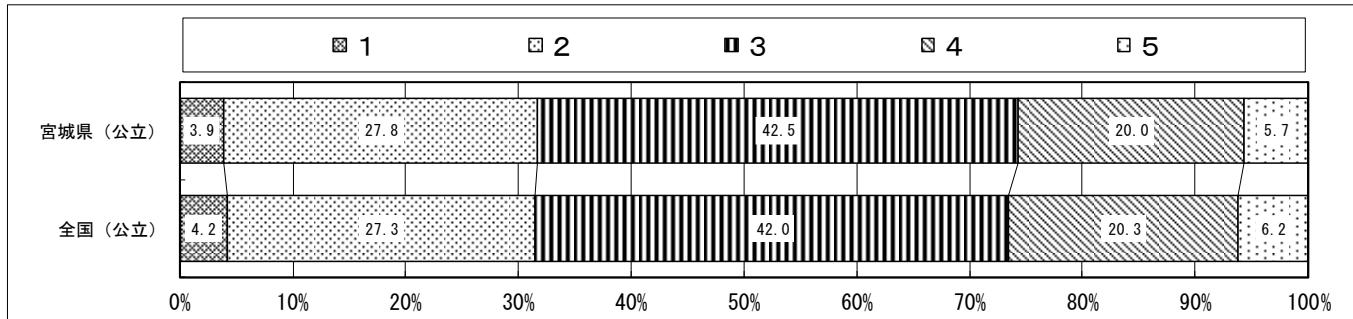


<IRT バンド>

IRT スコアを1~5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3がもっとも高いバンドとなる。

IRT バンド	割合(%)		
	宮城県(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)
5	919	5.7	6.2
4	3,198	20.0	20.3
3	6,792	42.5	42.0
2	4,452	27.8	27.3
1	631	3.9	4.2

IRT バンド分布比較



(4) 問題別調査結果

① 成果の見られる問題(◇)と課題の見られる問題(◆)

学力・学習状況調査結果(国立教育政策研究所 HP)

問題番号 <難易度> 形式	領域	出題の趣旨	正答率【全国との差】	
			県	自校
◇ 2(2) <2> 選択式	A エネルギー	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかを見る	95.0 【+0.4P】	【 】
◇ 4(2) <2> 選択式	A 粒子	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る	95.8 【+3.0P】	【 】
◆ 1(4) <5> 選択式	B 生命	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る	26.7 【-3.0P】	【 】
◆ 2(1) <5> 記述式	A エネルギー	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る	12.8 【-1.2P】	【 】
◆ 8(2) <5> 記述式	B 地球	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働きさせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかを見る	18.6 【+0.5P】	【 】
◆ 9(1) <5> 選択式	B 地球	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかを見る	28.3 【-3.5P】	【 】

② 無解答率のかい離が大きい問題([]:問題番号と形式、():領域、《 》:無解答率、【 】:全国との差)

・ [1(5)短答式] (粒子) 《10.5%》【2.0P】

塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかを見る

・ [1(6)記述式] (粒子) 《11.4%》【1.5P】

科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかを見る

<宮城県の傾向(中学校理科)>

- 平均 IRT スコアは、全国と同じ値でした。また、パーセンタイル値も同程度でした。IRT スコア分布は、全国よりわずかに低い傾向であることが分かります。
- IRT バンド分布は、全国と同等でした。
- 「Web ページ情報の信頼性についての知識及び技能」と「気体の性質に関する知識」は、比較的良好でした。
- 「音に関する知識を基に、変える条件に着目した実験を計画する」、「ボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現する」「探究の過程の見通しについて分析・解釈する」等に課題が見られました。
- 結果を基に考察したことを表現(記述)することに課題が見られたものの、無解答率はやや低い傾向が見られました。



主 体的

対 話的で

深 い学び

課題から迫る授業改善・教材研究

中学校
理科

<宮城県の生徒の課題>

予想が反映された振り返りを行い、探究の過程の見通しを分析して解釈する力を高める

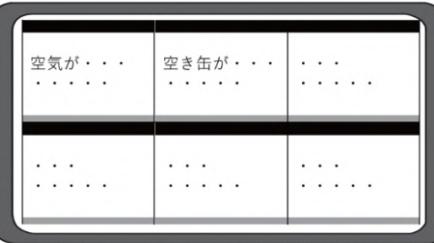
課題が見られた調査問題



動画を見て、缶がつぶれた理由を予想しましょう。

予想を記述したら先生に送信しましょう。

タブレット上に、みなさんの【予想】(図)を共有します。

動画 https://www.nier.go.jp/25chousa/img/25cyuu_rika_movie10.mp4

学習した内容をもとに、振り返っています。



学習を終えて、自分の考えがどのように変化したか、Aさんに【振り返り】を発表してもらいましょう。



Aさんの【振り返り】

わたしは煙のようなものが上がったので、最初は燃焼が起こって缶がつぶれたと思いましたが、状態変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。…

(1)

Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。
Aさんの【予想】として最も適切なものを1つ選びなさい。

Aさんの【予想】

- 煙のようなものが上がる化学変化が起ったのではないか。
- 缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。
- 温めると缶の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると考えた。
- 缶を水につけたときに、水に押されたからだろう。

(令和7年度全国学力・学習状況調査 中学校理科 大問9)

平均正答率の比較

平均正答率	自校	宮城県	全国
	%	28.3%	31.8%
誤答2選択率	自校	宮城県	全国
	%	54.2%	50.2%

宮城県の誤答分析

	反応率	解 答 類 型
正 答	28.3%	煙のようなものがあがる化学変化が起ったのではないか。と解答している
誤答1	14.7%	缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。と解答している
誤答2	54.2%	温めると空気の体積が大きくなるように、冷えると缶の中の空気の体積が小さくなると考えた。と解答している
誤答3	2.6%	缶を水につけたとき、水に押されたからだろう。と解答している
	0.2%	無解答

授業改善の視点

理科の見方・考え方では、差異点や共通点を比較検討することが、問題解決の糸口を見つけたり、実験結果を分析したりする上で重要です。探究の過程においては、最初に立てた予想や仮説と、得られた実験結果を比較し、予想や仮説が適切であったかを振り返る学習場面の設定を行いましょう。また、他者の意見を取り入れることで、自分の思考を深めたり、新たな視点を発見したりする機会を提供します。この活動を通して、生徒は自らの思考の変容を自覚し、「分からなかったこと」が「分かったこと」に変わることのダイナミズムを実感し、主体的な学習者へと成長することができます。

授業アイディア例(国立教育政策研究所)「大気圧について科学的に探究する」(第2学年)

探究の過程を通して、「見通しを持って科学的に探究し、自分の考えの変容に気付かせる」授業づくりを考えよう

探究の過程

自然事象に対する気付き

課題の設定

仮説の設定

見通し

検証計画の立案

観察・実験の実施

結果の処理

考察・推論

表現・伝達

振り返り

みやぎ理科支援ナビ



授業支援

生徒同士で対話をさせる方法も有效です。詳しくは総合教育センター「みちがえるパッケージ」を参照してください。

ワークシート例

○ 生徒が設定すると予想する仮説とその根拠

○ 探究の過程において生徒に働きかせたい「理科の見方・考え方」を引き出す手立て

○ 探究の過程における教師の問い合わせ例、授業づくりの視点

自分なりの予想・仮説を立てさせる（見通し）

「こうなると予想したのはなぜですか。」「もし〇〇がなかったら、どうなると思いますか。」「どんなことを調べれば、この疑問が解決できますか。」

- 生活経験や既習内容を想起させ「根拠のある予想」を立てさせる。

予想と結果を比較させる（予想・仮説の振り返り）

「予想と比べて、違っていた点はどこですか。」「この結果から言えること（事実）は何ですか。」「それから分かること（解釈）は何ですか。」

- 考えを改善する際には、修正前の考えを消さずに残したまま修正し、自己の変容を振り返らせる。
- 量的・質的な関係、時間的・空間的な関係、比較・関係付け・条件制御等の理科の見方・考え方を働きかせることを意識させる。

授業アイディア例(国立教育政策研究所)

「ストロー笛をつくり、音について科学的に探究する」(第2学年)

課題・予想・結論を比較させる（探究の過程の振り返り）

「予想通りの結論でしたか、そうではなかったですか。その理由は。」「予想を立てたとき、気付かなかったのはどんなところですか。」

- 苦手な生徒には「最初は〇〇〇と思っていたが、□□□という考えに変わりました」などの文例を参考にさせる。
- 課題を終えた生徒には、変数を増やしたり、実験方法を変えたりして、新たな課題について探究させる。

授業アイディア例(国立教育政策研究所)

「水をテーマに科学的に探究する」(第2学年)

集団づくりを自己肯定感の向上につなげましょう
～「協力」が「自信」を生み出す～

<「児童生徒質問調査」から> (数値は仙台市を含みます)

※回答選択肢:「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」

質問番号	質問事項	校種	当てはまる (%)	当てはまらない (%)	自校 当てはまる
児童生徒質問(5)	自分にはよいところがあると思いますか	小学校 (全国)	45.2 (47.3)	4.7 (3.9)	
		中学校 (全国)	38.9 (40.7)	3.3 (3.2)	
児童生徒質問(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	小学校 (全国)	48.4 (49.9)	1.7 (1.5)	
		中学校 (全国)	43.6 (45.5)	1.2 (1.3)	

<児童生徒質問(5)について>

- 小・中学校ともに、「当てはまる」が全国平均を約2ポイント下回っていました。
また、小学校では「当てはまらない」が全国平均を0.8ポイント上回っていました。

<児童生徒質問(39)について>

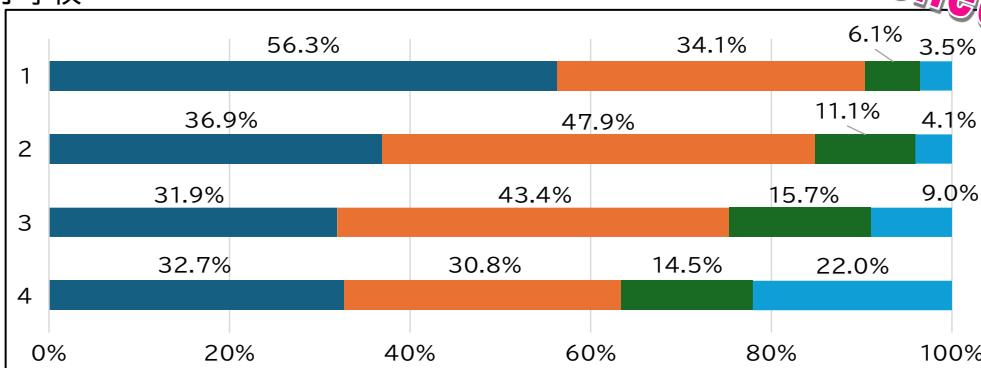
- 小学校は1.5ポイント、中学校は1.9ポイント、全国平均を下回りました。
一方、「当てはまらない」については、小・中学校ともに全国と同等でした。



<質問(5)と(39)とのクロス集計> ※縦軸:質問(5) 横軸:質問(39)

■: 1 (当てはまる) ■: 2 (どちらかといえば、当てはまる) ■: 3 (どちらかといえば、当てはまらない) ■: 4 (当てはまらない)

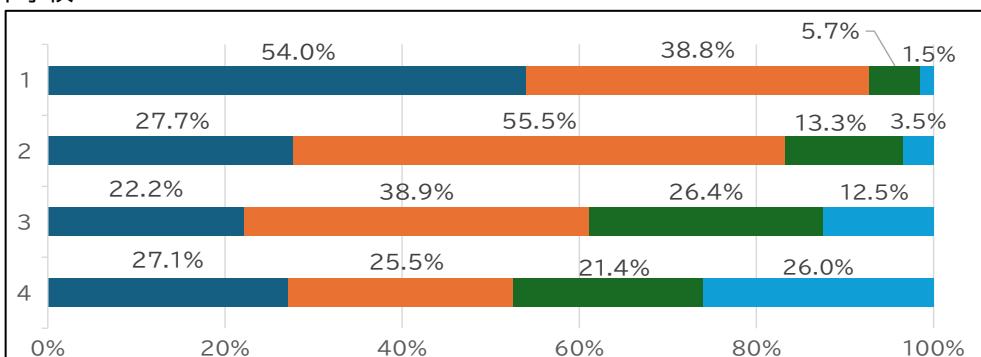
小学校



Check!

小・中学校ともに、「自分にはよいところがある」について「当てはまる」と回答した児童生徒の5割以上が、「相手を大切にして協力しながら課題解決に取り組む」ことにも「当てはまる」としています。一方、自己肯定感が低くなるにつれて、「相手を大切にして、協力して課題解決に取り組む」児童生徒も減少している傾向が見られました。

中学校



児童生徒が尊重し合い、良さや可能性を發揮し合える集団づくりが自己肯定感の向上へつながります。集団の成長に向けて、発達支持的生徒指導における実践上の4つの視点を日常の授業や学年・学級経営の中で常に意識しながら、教育活動を展開していきましょう。

生徒指導の実践上の4つの視点を意識した働き掛けのヒント

校内研修や学年会議、初任者研修などで活用してみましょう。



「自己存在感の感受」

「自分は大切」「できる」と感じさせる

- 信頼関係を築く
丁寧な呼名 目を見て会話 傾聴と寄り添い
- 「個別最適な学び」の実現
「分かった」「できた」という成功体験
- 努力の過程を評価
頑張りや思考のプロセスを大切にする
- 承認や称賛
「頑張っているね」「応援しているよ」
- 出番と役割の創出
責任ある役割を与えて達成感を味わわせる



「共感的な人間関係の育成」

認め合い、励まし合い、支え合う集団に

- 多様な交流活動の実施
協働的な学習で認め合う機会
→ ペアワークやグループワークなど
自然な形で協力し合う体験
→ ゲームやレクリエーションなど
- コミュニケーションスキルの指導
相手の良さの発見
応援する言動
相手の顔を見ながら交流
うなづきや相づちなどの反応
最後まで話を聞くなど



「自己決定の場の提供」

自分で考え、選択し、責任を持つ体験を

- 選択の機会の確保
 - ・学習テーマや課題
 - ・学習方法
 - ・当番や役割
 - ・朝の時間や休み時間の過ごし方など
- 授業運営、規範形成への参画
 - ・授業のルールや目標設定の一部を協議
 - ・学級目標や学級ルールの作成・見直しなど
- 課題解決の機会
 - 主体的に解決策を見付けるプロセスを重視
- 情報の提供
 - 選択に必要な情報を多角的に示す
- 協議と振り返りの場の設定
 - 次の行動につなげる機会を与える



「安全・安心な風土の醸成」

身体的、精神的に安心できる環境を
他の3つの視点を支える土台です。

- 「いじめや差別」への毅然とした指導
- 偏見を許さない集団の規範形成
- 失敗を許容する雰囲気づくり
- 多様性の尊重
- 児童生徒への共感的な理解
- 共通理解に基づく指導
 - 全教職員で生徒指導提要の視点や学校の生徒指導方針を共有し、一貫した対応につなげる



4つの視点について

[生徒指導提要\(文部科学省\)](#)

特別活動における発達支持的生徒指導の実践のヒント

宮城県総合教育センター
R5年度 専門研究(生徒指導)

4つの視点の手立てに関連した実践例

宮城県総合教育センター
R2年度 長期研修 A(小学校・生徒指導)

主 体的

対 話的で

深 い学び

学校改善

・

授業改善

主体的・対話的で深い学びに向けて

児童生徒の「主体性」を育てる取組を継続しましょう

～主体性と学力は「両輪」で伸びる～

<「児童生徒質問調査」から> (数値は仙台市を含み、【 】は前年度との比較による数値です)

※ 数値は回答選択肢の「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合算したものです

質問番号	質問事項		R7	R6	R5	自校(R7)
児童生徒質問 (32)	(前年度まで受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小学校	81.5 【-1.5】	83.0 【+4.5】	78.5	【 】
		中学校	78.6 【-3.8】	82.4 【+1.9】	80.5	【 】

児童生徒の主体性を育むために活動を委ねる取組が増えて
いますが、ねらいの理解、適切な見取りと支援が不可欠です。



<経年比較から>

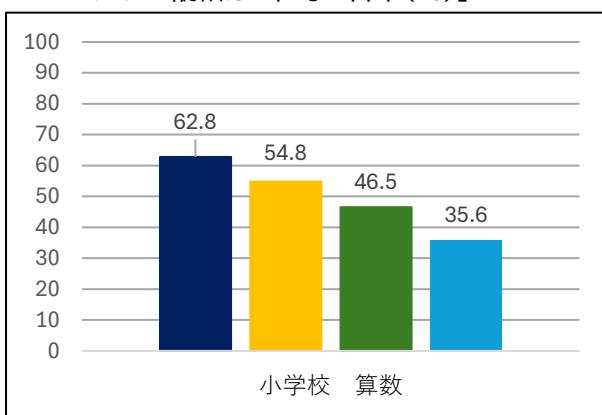


宮城県児童生徒の「主体的に学ぶ姿勢」における肯定的
回答について、令和6年度は令和5年度と比べて小学校
で4.5ポイント、中学校で1.9ポイント増加しました。しか
し、令和7年度は昨年度より小学校で1.5ポイント、中学校
で3.8ポイント減少しています。

宮城県内の学校では、児童生徒の主体性を育む様々な
取組が実践されています。それらを継続しながら、児童
生徒が「主体的に学習に取り組めている」と実感できるよう
な工夫を、さらに実践していきましょう。

<教科とのクロス集計>(算数・数学)

※ グラフ縦軸は「平均正答率(%)」



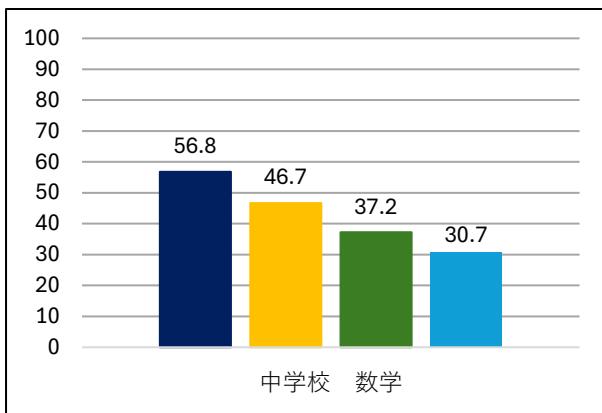
※ グラフ横軸は回答選択肢

■ : 1 (当てはまる)

■ : 2 (どちらかといえば、当てはまる)

■ : 3 (どちらかといえば、当てはまらない)

■ : 4 (当てはまらない)



教科とのクロス集計からは、主体性が高い児童
生徒ほど学力も高い傾向が一貫して見られます。

このことは、学力の向上が単なる知識や技能の
習得だけでなく、学びに向かう力や自分で学びを
調整する力と深く関係していることを示していま
す。

先生方の一つひとつの工夫が、子供たちの主体
性を育て、確かな学力の育成へつながっていき
ます。

今後も、子供が自ら学びに向かう学校づくりを
進めていきましょう。



児童生徒の主体性を支える「学年チーム」による協働

各学校の核となる主任層教員のリーダーシップを『変革のエンジン』とし、若手もベテランも立場を超えてアイデアを出し合い、全教員で未来の学びを創造していきましょう。

<授業づくり・集団づくり 実践例>

○小学校 体育科（表現）

児童のやる気

「自分たちでダンスの曲や振り付けを考えたい」



学年チームの協働

「子供たちの発想を生かそう」
「子供たちが主体的にダンスを創り上げていく声掛けをしよう」
「全校児童や保護者・地域に発表する機会をつくろう」



<学習発表会で披露>

○中学校 学習支援

学年チームの協働

「学習方法に悩む生徒たちのために、放課後に学ぶ機会を設定してみよう」



生徒のやる気

「放課後学習会に参加してみよう」



<放課後学習会>

学年チームの協働

「全教員で『学習相談日』を設定し、定着テストも行って学力を向上させたい」

○小学校 交換授業・交換担任

学年チームの協働

「道徳の授業を改善したい」
「学年で給食・清掃の指導をそろえ、子供たちの成長を支えたい」



学年チームの協働 「学年で検討した道徳の授業から給食・清掃まで指導することで、学年担任の意識を高めたい」

(例)		1組	2組	3組
4校時	3組担任（中堅層）	1組担任（主任）	2組担任（初任層）	
給食				
清掃				

※ 放課後に、授業の振り返りと情報交換（生徒指導関係）、給食・清掃指導の確認

児童のやる気
「いろいろな先生と学習してみたい」

<ICTを活用した アイディア例>

○オンライン共有ノート

- ・会議前に議題に対する意見を書き込み
⇒ 会議では「協議」から開始
- ・メンバー全員で共通シートに意見の書き込み
⇒ 確実な共通理解と記録の蓄積
- ⇒ 他学年とも共有すれば学年経営のヒントに

<単学級校 アイディア例>

○複数学年合同の「学年会議」

⇒ 授業動画や子供のノートなどを基に協議

○「チーム担任制」的発想の導入

⇒ 教務主任、養護教諭、栄養教諭、通級担当などの担任以外を含めた児童生徒理解

○近隣校とのオンライン会議 ⇒ 情報交換会





これから求められる国語の授業づくり

宮城教育大学教育学部 教授 児玉 忠

「全国学力・学習状況調査」の目的は「指導の改善」にある

全国学力・学習状況調査(全国学調)が実施されるたびに、その結果が公表され、様々な議論が巻き起こります。しかし、この調査の本質的な目的を改めて認識することが、国語科における効果的な活用への第一歩となります。

私は、調査の目的を以下の三点に読み替え、その活用を提言します。

第一に、調査は教員の指導力向上を目的としています。子供たちの学習状況を調査することは、彼らが受けた授業の質、すなわち教員の指導力を調査していることと同義です。本委員会の最重要ミッションは、この調査結果を基に、教員の指導を改善し、充実を図るための情報を提供することにあります。

第二に、調査問題そのものが文部科学省からの教材・指導法の提案であるという認識を持つべきです。この調査が始まった当初、「教科書を学習しても解けない」という批判がありました。しかし、それは文部科学省が現状を測るだけでなく、「このような問題が解ける授業ができるようになってほしい」という未来志向のメッセージを込めているからです。調査は、現在の実態把握に加えて、教育の理想像への道筋を示す「一石何鳥」をもねらった重要な政策ツールなのです。

第三に、調査結果は「すぐに活用できる具体的な形」で提供されなければなりません。理屈や理念ではなく、日々の授業で教員がそのまま使える実践的な情報が求められます。教員自身が調査結果を深く分析し、それを基に授業改善案を「作る側」に立つ必要があります。

国語科の特性と資質・能力の測定構造

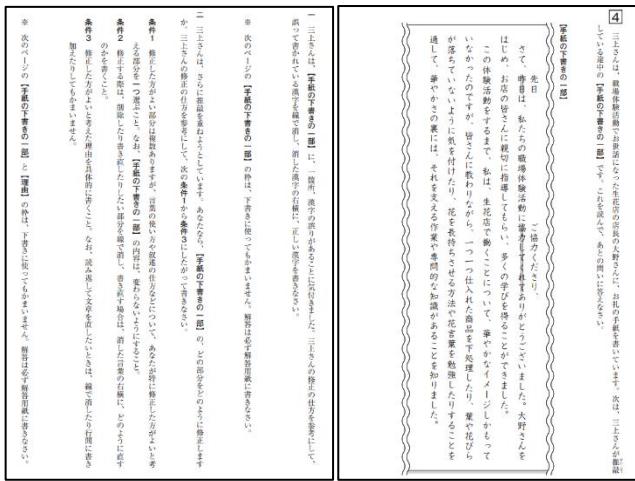
国語科の学力測定には、他教科には見られない特有の難しさがあります。それは、問題のタイトルや「ごんぎつね」「走れメロス」といった教材名だけでは、育成すべき資質・能力が見えにくいという教科特性です。専門家であっても、教材のみから育成する力を即座に答えることは困難です。

この背景には、学習指導が「コンテンツ(教材)」を利用して「コンピテンシー(資質・能力)」を育成し、それを「アクティビティ(言語活動)」を通して実現するという構造があります。国語科の学習指導要領には教材名が記載されておらず、コンピテンシーとアクティビティが中心です。このため、教員はコンテンツに指導事項を「あてる」という主体的かつ任意の判断で結び付ける必要があり、ここに国語科の授業づくりの複雑さと奥深さがあります。

全国学調の作問においても、この特性が反映されています。問題は、伝統工芸品のチラシ作成(図1)や職場体験のお礼状推敲(図2)といった具体的な場面設定と課題解決を伴う言語活動の形式をとります。



【図1 R7全国学力・学習状況調査 小学校国語 大問2】



【図1 R7全国学力・学習状況調査 中学校国語 大問4】

これは、単なる知識ではなく、その活動の背後に隠された「書くこと」の「情報の収集」「構成の検討」といった資質・能力が働く過程を測定することを意図しているのです。この隠された意図を読み解くには、作成者がどのような意図で問題を設計したかを示す解説資料が不可欠となります。さらに、近年では「学力低下論」を経て「国語力」ではなく「言語能力」の育成が重視されるようになり、平成29年の指導要領改訂では、全教科共通の「認識→思考→表現」という課題解決のプロセスが強く意識されています。国語科は、このプロセスを具現化する「コンピテンシー教科」としての役割を深く担っていると言えます。

課題分析の視点と今後の提言

調査結果の活用において、単純な市町村間の比較は大きな意味を持ちません。わずかな得点差は誤差の範囲であり、それよりも「この問題があまり解けなかった」という事実を、より本質的に捉えるべきです。

文部科学省は、明らかにつまずきそうな問題を意図的に作っています。これは、すべてをフ

ラットに測定するのではなく、「この力が今、授業で身に付いているか」という重要な資質・能力に焦点を当てているからです。したがって、他県との比較ではなく、どの設問に課題が見られたのか、そしてそれが文部科学省の予想通りつまずきがあった箇所なのかという意識で分析を進めることができます。今後の指導課題を明確にする上で最も効果的です。夏に公表される調査結果からは、課題があった問題やつまずきが集中した問題に着目し、その問題の背後で働く資質・能力を深く見極めることが重要です。本委員会においては、その分析を基に、資質・能力を育成するための具体的な指導改善案を分析・提案していただくことを強く期待します。

結び

国語科は、他教科と比べて、教材(調査問題)だけを見ても育成する(測定する)「資質・能力」が見えにくい教科です。また、他県や他市町村との結果比較も、あまり大きな意味はありません。なぜなら、調査結果の県レベルや市町村レベルでの有意差が極めて小さいからです。

全国学力・学習状況調査が示す結果は、私たち教育現場にとって大きな学びの機会と捉えられます。調査問題の背後で働く「資質・能力」は何かをしっかりと見極めて、本委員会ではそれを育成するための具体的な指導改善案を分析検討し提案されることを期待しています。主体的・対話的で深い学びを実現し、活用する力を育成する授業の工夫が求められている中、ICTを活用しつつも、子供同士が対面で言葉を交わしていくことが国語の授業にとって何より大切です。子供たちに最適な学びの場を提供することに全力を尽くしていきましょう。

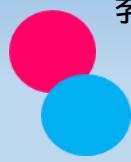


児玉 忠 (こだま ただし)

宮城教育大学教育学部 教授

大阪の私立高等学校教員を経て、弘前大学教育学部、教授。平成28年4月より現職。

専門は、国語科教育学。平成30年「詩の教材研究—創作のレトリックを活かす」等を執筆。



教育学の観点から学力向上に向けた提言 これから求められる算数の授業づくり

宮城教育大学大学院教育学科研究科 教授 市川 啓

算数・数学の学習における 根本的な課題

算数や数学の学習において最も重要なのは、「概念形成」です。多くの人は、算数・数学は問題が解ければよいと考えがちですが、それは不十分です。数学の概念はいくつもの段階を経て抽象化されているため、子供の発達段階に合わせて着実に概念を形成していくなければ、その後の学習内容が理解できなくなってしまいます。小学校から中学校にかけての算数・数学は、これらの概念を豊かに形成する場であるにもかかわらず、単に計算や問題が解けることばかりが重視され、根本的な理解に至っていない現状があります。

宮城県の児童生徒の学習状況からも、この課題が浮き彫りになっています。昨年度(令和6年度)の調査によると、「算数の授業内容がよく分かる」と答える児童生徒の割合は全国よりも少なく、「解けない時に粘り強く考える」「問題が解けた時に別の解き方を考える」といった姿勢も不足しています。これは、学習への取り組み姿勢に問題があることを示唆しています。

具体的な例として、以下の問題が挙げられます。

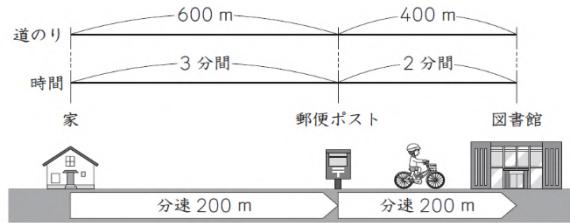
速さの問題(図1):「家から郵便ポストまで分速 200m、郵便ポストから図書館まで分速 200m で行ったとき、家から図書館までは分速何 m か」という問題の正答率は、宮城県で 43.3% (仙台市を含まない) にとどまりました。全国平均正答率も 54.1% に過ぎませんでした。

割合の問題(図2):「ジュースの濃度が $1/2$ になると、果汁の割合はどうなるか」という問題の正答率は、宮城県で 19.1% (仙台市を含まない)、全国平均正答率は 21.4% でした。こ

れは割合の概念がよく理解できていないことを示しています。

これらの結果は、単に問題を解く手続きを教えるだけでは不十分であり、正答率を上げること以上に、根本的な概念形成ができているかが問われていることを示しています。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5 分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

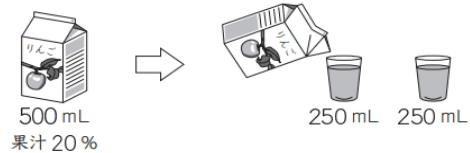
郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

【図1 R6全国学力・学習状況調査 算数 大問4(4)】

(3) りんごの果汁が 20 % ふくまれている飲み物が 500 mL あります。この飲み物を 2 人で等しく分けると、1 人分は 250 mL になります。



250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、②

上の②にあてはまる文を、下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。

2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は 2 倍になります。

3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

【図2 R4全国学力・学習状況調査 算数 大問2(3)】

授業改善とカリキュラムの整合性

学力向上には、概念形成を促す授業への変革が必要です。そのためには、まず教師自身が学習指導要領や教育目標に示されたカリキュラムの意図を深く理解することが不可欠です。カリキュラムは、「意図されたカリキュラム(学習指導要領)」、「実施されたカリキュラム(実際の授業)」、そして「達成されたカリキュラム(学力調査の結果など)」の3つの層から成り立っています。この3つの層が互いに整合性(アライメント)を保っているかを確認することが重要です。学習指導要領が意図する内容が授業に反映され、それが子供たちの力として確実に定着しているか、その一連の流れを常に意識しなければなりません。

教師が「解き方を教えたら問題が解けるようになった」と満足しているだけでは、子供たちは初めて出会う未知の問題に対応する力を身に付けることができません。学習指導要領が目指す「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」を育むためには、単に決まった解き方を教えるだけでは限界があるのです。

「主体的・対話的で深い学び」の実現

学習指導要領は、「学びの過程としての数学的活動の充実」を重視しています。これは、日常生活や数学の事象を数学的に捉え、問題を抽出し、解決し、その結果を再び日常生活に活かすという問題発見・解決のプロセスを重視するものです。このプロセスを意識させることで、児童生徒は主体的に深く学ぶことができます。また、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化的充実」も重要です。最近は個別最適な学びが先行しがちですが、心理学者のヴィゴツキー

が提唱した「発達の最近接領域」の考え方によれば、一人で到達できるレベルと、他者との関わりの中で到達できるレベルの間に、学びの可能性が広がっています。単に友達と勉強しているだけではなく、数学的な表現を用いて互いの考えを説明し合い、理解を深める「対話的な学び」を促す必要があります。

これらの「主体的・対話的で深い学び」を実践することで、児童生徒は新しい知識や技能を獲得し、既存の知識と統合して思考や態度を変容させる「深い学び」を体験することができます。しかし、現状の授業ではこれらの力が十分に育っていないと危惧されます。

授業改善の具体的なアプローチと 教師の役割

教師には、どの単元のどの概念形成が子供たちだけで難しいのかを見極める専門性が求められます。最近の「子供に任せる授業が良い」という風潮は、若手教師の指導力低下や、根本的な問題解決に至らない事態を引き起こす可能性があります。

授業を改善するためには、教師の役割を明確にすることが不可欠です。「誰一人取り残さない」教育を目指すならば、単に決まった方法を教えるのではなく、生徒一人ひとりが自分のやり方で問題に取り組むことを認め、それを粘り強く考えさせ、より良い方法へと高めていくプロセスを経験させることが重要です。

子供自身が解決方法を「つくる」過程を大切にし、それを徐々に洗練させていくような授業こそが、これからの中数・数学教育に求められています。単に教科書通りの解法を教えることが重要なのではありません。



市川 啓 (いちかわ ひらく)

宮城教育大学大学院教育学研究科 教授

埼玉県の小学校教員を経て、山形大学地域教育文化学部講師、准教授。令和6年4月より現職。専門は、乗法概念領域の教授・学習。令和2年公益財団法人 日本教材文化研究財団調査研究シリーズNo.82「4 算数科授業における『数学的な見方・考え方』の働きと教師の役割」等を執筆。

参考となるWebサイト一覧

1 本紙及び過去の宮城県検証改善報告書

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kensyokaizen.html>



2 令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた 学習指導の改善・充実に向けた説明会 【国立教育政策研究所】

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r07setsumeikai/index.html>



3 平成29・30・31年改訂 学習指導要領(本文、解説) 【文部科学省】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm



4 Mナビ教育データライブラリ 【宮城県総合教育センター】 (各教科、校種の学習指導案等が検索できます)

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/mnavi-detalib.html>



5 みやぎ理科支援ナビ 【宮城県総合教育センター】

<https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/science/?ver=2023>



6 中学校英語事例集 【国立教育政策研究所】

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou/eigo/r07.html>



子供の学びを支援する5つの提言

～自立した学習者の育成を目指して～

1 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、 安全・安心に学べる環境をつくりましょう

安全・安心な居場所は、子供が充実した生活を送るための土台となります。子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援をすることで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めるなど、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。

2 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう

子供をほめるときには、子供が努力したことを具体的にほめることが大切です。努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てましょう。

3 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように 支援することで、学びに向かう力を育てましょう

子供が様々な学び方を知り、経験することで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるようになります。子供自身が学びの計画を立て、自由な発想でICTを活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てましょう。

4 自分の考えを発表したり、 交流したりする活動を充実させることで、 深い学びにつなげましょう

自分の考えを発表したり、交流したりすることで、一人一人のよい点や可能性が生かされ、異なる考え方や組み合わせ、子供の学びが豊かになります。子供が習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援しましょう。

5 家庭学習の質的向上を図るとともに、 読書の時間を増やす働き掛けをしましょう

起床時刻、学習を始める時刻、就寝時刻を定めるなど、生活リズムを整えながら家庭学習の時間を確保するとともに、子供自身が課題を設定したり、ICTを効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働き掛けましょう。また、家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図りましょう。

宮城県教育委員会 令和5年3月

「学校教育に期待すること」

人口減少や多様化が進む中、子供たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。保護者として学校教育に望むことは、点数や偏差値に目が行きがちですが、単元ごとの理解を深めた基礎学力の定着と、主体的に学ぶ姿勢を養うことです。また、学校での集団生活を通じ「協調性」や「自制心」といった、豊かな人生を送るうえで土台となる非認知能力を育て、次世代の担い手となるよう自立心と思いやりの心を育み、未来を生き抜く力を身に付けてほしいと願っています。

宮城県PTA連合会
常任理事 星 岳大

大人になり社会に出た際も、きっと役に立つ大切な力「自分で考える力」を子供たちには身に付けてほしいと願っております。この報告書は、教育現場で子供たちに、その気付きやヒントを与えてくださる先生方への一助になるものと確信しております。子供の健全育成には、教育と福祉は必要不可欠であり、当所では総合教育センターのお力を借りし、教育と福祉の連携を推進しております。この動きが県内各地域で更に広まりますよう、ご協力ご支援をお願いいたします。

宮城県子ども総合センター
所長 伊藤 敏之



令和7年度 宮城県検証改善委員会 委員

宮城県教育庁義務教育課	課長	本田 史郎	宮城県総合教育センター	副所長	早川 知宏
宮城県教育庁義務教育課	課長補佐	日野 英信	宮城県総合教育センター	副参事	渡邊 隆仁
宮城県大河原教育事務所	主幹	飯塚 悠	宮城県総合教育センター	次長	高橋 正範
宮城県仙台教育事務所	主幹	平 健司	宮城県総合教育センター	主幹	下山絵美子
宮城県北部教育事務所	主幹	中里 ゆり	宮城県総合教育センター	主幹	永原 啓嗣
宮城県東部教育事務所	主幹	鈴木和歌子	宮城県総合教育センター	主幹	加藤 裕樹
宮城県気仙沼教育事務所	主幹	佐藤 隆史	宮城県総合教育センター	主幹	宍戸 篤史
蔵王町立宮中学校	教頭	遊佐 賢	宮城県総合教育センター	主任主査	山本 誠子
石巻市立稻井中学校	教頭	高橋 壮	宮城県総合教育センター	主査	氏家 大輔
利府町立利府第三小学校	主幹教諭	八木 庸介			

令和7年度 宮城県検証改善委員会 オブザーバー

宮城教育大学 教授	児玉 忠	宮城県PTA連合会	常任理事	星 岳大
宮城教育大学大学院教育学研究科 教授	市川 啓	宮城県子ども総合センター	所長	伊藤 敏之

発行年月 令和7年11月

宮城県総合教育センター 名取市美田園二丁目1番4号 TEL 022-784-3541



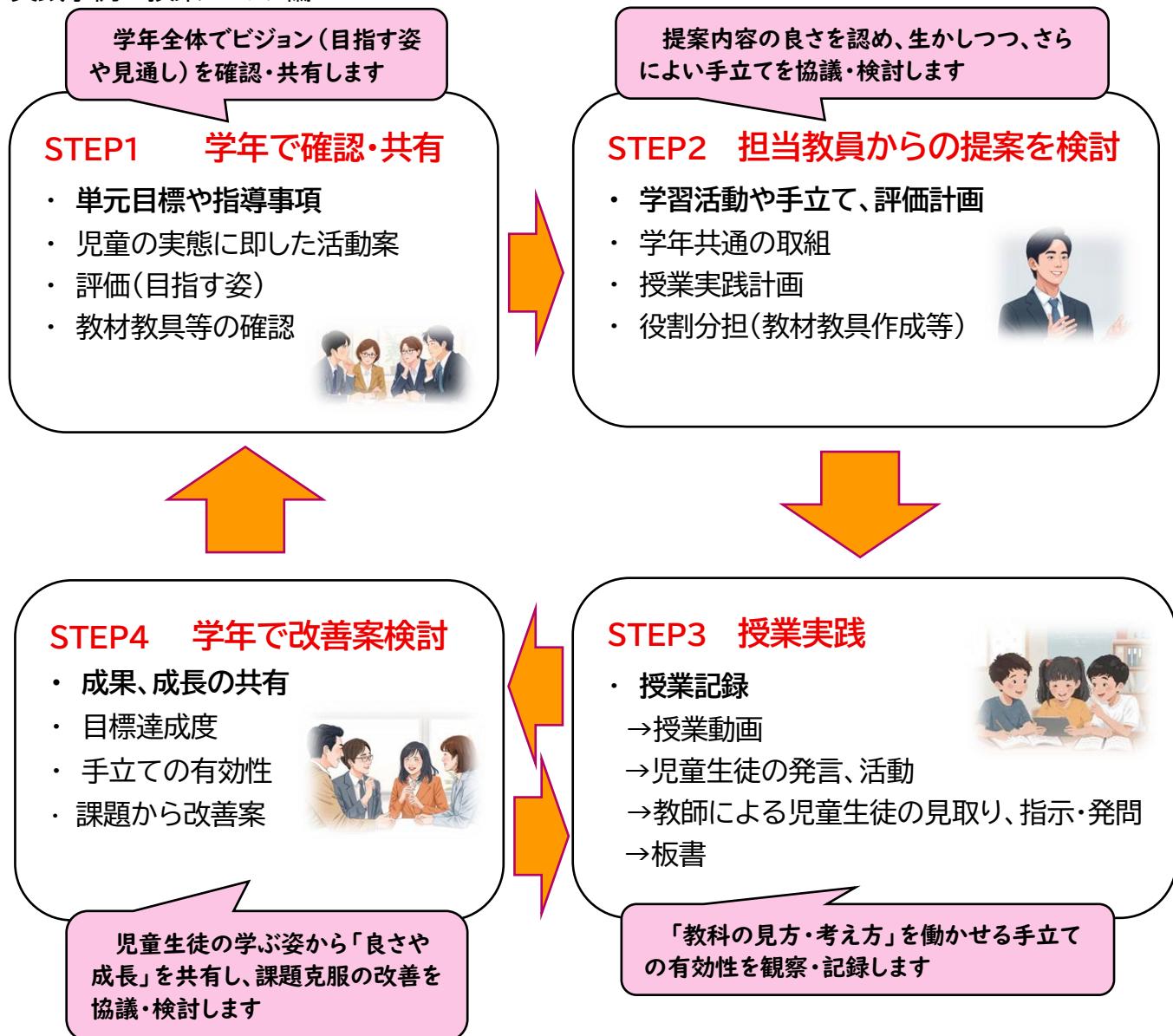
【補助資料】「協働」を生み出す学年会議のポイント

- 1 学年主任がビジョンを示す
～学年目標に向かって意図的・計画的に～
- 2 学年教員間の「相互理解」と「尊重」を促す
- 3 「強み」を生かす(引き出す)～任せて、支える～

Check!



<実践事例～授業づくり編～>



学年主任は、学年教員の「強み」(得意分野)を引き出し、担当責任者として成長できる機会をつくってみましょう。
周囲は温かく見守りつつ、適宜指導・助言の声掛け等を行なながら支えていくことが大切です。



STEP1 「協働」でアセスメント①

- ・引継資料や前年度担任からの情報共有
(配慮事項、友人関係、家庭での様子等)
- ・児童生徒の作品
(「志」シート、道徳ワークシート、図工美術作品、作文・日記、目標カード等)

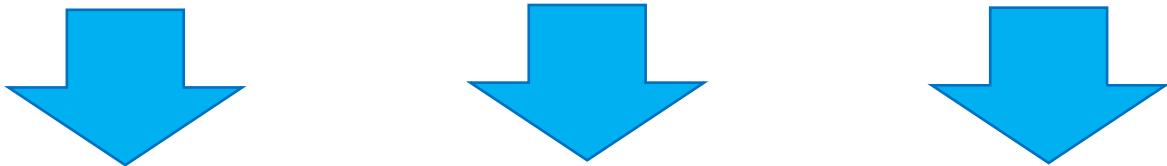


Check!

STEP2 「協働」でアセスメント②

- ・日々の様子(言動等の見取り)の共有
 - 表情 服装(乱れはないか)
 - 行動(落ち着き、学習用具、忘れ物等)
 - 言葉遣い(否定的な言葉、自他を傷つける言葉等はないか)
 - 周囲とのかかわり(友達・教師・家族)
 - 学習の様子(得意分野、苦手分野(つまずき))

事実や気付きを記録し、根拠をもって指導支援に当たることが大切です。



STEP3 学年主任等のファシリテーションによる「協働」

<児童生徒へのアプローチ>

- ・複数の教員から声掛け
(授業・休み時間・部活等)
→児童生徒の反応を教員間で共有
→継続したかかわり
- ・朝や帰りの会、授業、学年集会等で児童生徒の良さを賞賛する場面の設定

<教員へのアプローチ>

- ・管理職や生徒指導主任(担当)、養護教諭、SC(スクールカウンセラー)等、学年以外の教職員と情報共有
- ・ケース会議の早期かつ継続的な設定

<家庭へのアプローチ>

- ・電話、連絡帳、教育面談などを通じての情報共有と相談
- ・学校便り、学年便り、学級便り等を通じて、児童生徒の良さや成長等を定期的に伝える。

主体的に「協働」する学年教員の「チーム」としての姿勢が、

児童生徒への支援をより深く、確かなものにします。

